

# CP Dream-Plus i

## 取扱説明書

(第4版)

*Dream-Plus i* をお買い上げいただきありがとうございます。

*Dream-Plus i* を安全・快適にお使いいただくために、はじめにこの取扱説明書をよくお読みになり、各部の名称や操作方法等をよくご理解いただいた上でお使い下さいますようお願い致します。

またこの取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と商品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書の中の『*Dream-Plus i* を安全にお使いいただくために』をよくお読みのうえ、安全にお使いください。

この取扱説明書は、*Dream-Plus i* を使用中にわからないことがでてきたときにいつでも読み返せるよう大切に保管をお願い致します。



# 目次

<i>Dream-Plus i</i> を安全にお使いいただくために	1
ご利用される方への注意	7

## ご使用される前に

<i>Dream-Plus i</i> とは	9
各部の名称	10
制御機能説明	15
安全機能	21

## 操作のしかた

操作するには	23
1. 運転する前に	23
2. 確認運転をする	25
3. 運転する	27
4. 1日の運転がおわったら	30
<i>i</i> 利用中に耳が痛くなったら	31
<i>i</i> 『耳抜き支援モード』を利用するには	32
<i>i</i> 緊急時には	33
<i>i</i> 1人で操作するには	35
お手入れするには	38
故障?と思ったときは	40
警報およびエラー表示と対策	42
主な仕様	44

## 設置手順書

<i>Dream-Plus i</i> の設置	46
-------------------------	----



## Dream-Plus *i* を安全にお使いいただくために

●当社では、当社の商品をお使いいただくお客様はもとより、商品を管理される方に対して  
も常に**安全を最優先**させるように考えております。

●Dream-Plus *i* (以下、装置) をご使用いただく前にはこの取扱説明書をよくお読みになり、  
記載されている内容を充分にご理解いただく必要があります。

●この取扱説明書は、装置を使用するときにはいつでも確認できるよう、大切に保管してく  
ださい。装置の近くに保管されることをおすすめします。

●この取扱説明書では、取り扱いを誤った場合に発生が予想される危害・損害の程度を、基  
本的に『警告』・『注意』の2段階に分類して表示してあります。その定義と表示は次のとお  
りです。

 <b>警 告</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷 <sup>※1</sup> を負うことが想 定される危害の程度
 <b>注 意</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害 <sup>※2</sup> を負うことが想定されるか、 または物的損害 <sup>※3</sup> の発生が想定される危害・損害の程度




※1 重傷とは失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、  
および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

※2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど（高温・低温）、感電などを指  
します。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指します。

なお、『注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。  
いずれも重要な内容を記載していますのでかならず守ってください。

●装置やこの取扱説明書に表示されている記号には次のような意味があります。

	「～しないでください」という <b>禁止</b> を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	「ご注意ください」という <b>注意喚起</b> を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	「かならず実行してください」という <b>強制</b> を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



# 警告

## 装置を使用するとき



### カプセル内および設置場所では火気厳禁・禁煙

マッチ、ライター、たばこ、カイロ、可燃性液体など、発火したり引火したりするおそれのあるものをカプセル内には絶対に持ち込まないでください。



### カプセルの乱暴な取り扱い禁止

- ・カプセルやスライドドアの上に乗ったりものを載せたり叩いたりして、胴体がへこんだりスライドドアのレール部分が破損したりすると、スライドドアが開閉できなくなり、事故や故障の原因になるおそれがありますので、乱暴に扱わないでください。



### 体調不良者への使用禁止

この装置は医療機器ではありません。風邪をひいている人、妊娠している人、酒に酔っている人、その他体調がすぐれないときには利用しないようにしてください。

※詳細は7ページを参照してください。



### 悪い環境下での使用禁止

- ・気温および湿度の高い場所（エアコンで温度・湿度が調整された部屋でお使いください。）
- ・ほこり、油煙の多い場所や虫の入りやすい場所
- ・直射日光が当たる場所、熱器具の近く
- ・ガスや悪臭・異臭が発生する場所、およびそれらが発生するようなものがある場所
- ・騒音・振動が発生する場所、およびそれらが発生するようなものがある場所



### カプセル、制御盤、および操作器の分解／改造禁止

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



### 電源コードや各種接続ケーブルへの傷つけ禁止

傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりすると、感電や火災、または故障の原因になります。



### カプセルおよびスライドドア、ゴムパッキンへの傷つけ禁止

- ・刃物や先のとがった道具・工具等でカプセル等やゴムパッキンに傷を付けないように注意してください。ゴムパッキンが破損した場合、正常に加圧できなくなるおそれがあります。
- ・ゴムパッキンが破損した場合は、かならずお買い上げ販売店または弊社までご連絡ください。



### 操作器・制御盤への液体の使用禁止

操作器や制御盤の内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



### 濡れた手での取り扱い禁止

感電や火災、または故障の原因になります。



# 警告

## 装置を使用するとき



### 設置場所の換気をする

この装置はまわりの空気を吸い込んで加圧しますので、よごれた空気を吸い込まないように、装置のまわりの空気はきれいにしておく必要があります。



### 電源は、AC（交流）100V・定格15A以上のコンセントを使用し、たこ足配線は行なわずに単独で使用する

- ・電圧や定格が異なると、感電や火災、または故障の原因になります。
- ・他の器具と併用するとコンセントが異常発熱して発火するおそれがあります。

### プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

- ・差し込みかたが不完全な場合、感電やショートのおそれがあります。



### 電源プラグの刃および刃の取り付け面はきれいにしておく

電源プラグの刃および刃の取り付け面に汚れやほこりが付着していると、感電やショートのおそれがあります。



### 装置に異常を感じたときはすぐに使用を中止し、電源プラグを抜く

「作動音がおかしい」「空気が漏れる音がする」「スタートボタンを押しても動かない」「変なにおいや煙が出る」等の異常を感じたときは、感電や火災、または故障のおそれがあるので、すぐに使用を中止して、電源スイッチ～ブレーカーの順にOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店または弊社までご連絡ください。



### アースを確実に取り付ける

- ・故障や漏電のときに感電の原因になります。
- ・カプセル内用 AC100V 電源タップについても確実にアースを取るようして下さい。



## 注 意

### カプセルに入る人への注意事項



#### カプセル内への不要物持ち込み禁止

- ・マッチ、ライター、たばこ、カイロ、可燃性液体など、発火したり引火したりするおそれのあるものを絶対に持ち込まないでください。
- ・湯タンポ、ペットボトル、紙パック飲料等の密閉容器類は気圧の影響で破裂するおそれがあるので絶対に持ち込まないでください。
- ・ラジオ、時計、携帯電話、携帯テレビ、コンピュータなどの電子機器や精密機器を持ち込んだ場合、気圧の変化がそれらの製品の寿命に影響する可能性があります。  
**万一それらを持ち込んで故障した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。**
- ・食べものや飲みもの、薬品類を持ち込まないでください。



#### 体調不良時の利用禁止

この装置は医療装置ではありません。風邪をひいているとき、妊娠しているとき、酒に酔っているとき、その他体調がすぐれないときには利用しないようにしてください。

※詳細は7ページを参照してください。



#### はさまれ・ひっかけ注意

スライドドアを開閉するときや、カプセルに出入りするときは、手や髪など体の一部や衣服がはさまれるとけがの原因になるので、充分注意してください。



#### 耳痛に注意

- ・加圧中・減圧中は気圧の変化の関係で耳が痛くなり、『耳抜き』が必要となる場合があります。（この症状には個人差があります。）
- ・風邪をひいているときや、寝不足、二日酔い、疲れ、発熱等の症状がある等体調がすぐれないとき、あるいはアレルギーや鼻炎などで鼻詰まりを起こしやすい方は耳抜きがうまくできない場合があります。
- ・耳に違和感を感じたらすぐに耳抜きをおこない、うまく抜けずに耳が痛くなったらすぐに係員に知らせ、『耳抜き支援モード』を利用するなどの対応をしてもらってください。

※詳細は7、31、32ページを参照してください。

### 設置・組立のとき



#### 不安定な場所への設置禁止

床面に傾斜や凹凸があるような不安定な場所に設置すると、装置が転倒・転覆して故障したり、利用者がけがをしたりするおそれがあります。



#### 組立完了前の電源接続禁止

装置の組立・接続が完了するまでは、コンセントに電源プラグを差し込まないでください。感電やけが、または機器の損傷の原因になることがあります。





# 注 意

## 運転・操作するとき



### カプセルの乱暴な取り扱い禁止

- ・カプセルのスライドドアの上に乗ったりものを載せたり、叩いたりしてスライドドアが破損した場合、事故や故障の原因になります。また、スライドドアをいきおいよく開閉すると、スライド機構が故障したり、指をはさんでけがをしたりするおそれがあります。
- ・スライドドアが破損した場合は、かならずお買い上げ取扱い店または弊社までご連絡ください。



### はさまれ・ひっかけ注意

スライドドアを開閉するとき、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりするとけがの原因になるので、充分注意してください。また、カプセルの中の人についても、出入りの際には充分注意してください。



### 装置の操作方法を熟知した人が操作すること

初心者が操作する場合にはかならず熟練した人が操作指導するようにしてください。操作に不慣れな人だけで運転した場合、故障や事故があったときに的確な対応ができないおそれがあります。



### 使用前にはかならず各部の点検と試運転を行なうこと

カプセル、各種弁、スイッチ類が異常な状態のまま使用すると、事故や故障の原因になります。異常を発見したら、その異常が解決されるまでは絶対に使用しないでください。



### スライドドアは規定の「閉」位置までしめて、運転を行うこと

閉位置が不完全な場合、空気が漏れて所定の気圧まで上がらなくなるので、スライドドアをしめるときは規定の「閉」位置までしっかりしめてください。



### 装置を運転しているときは装置や利用者の様子を確認すること

装置やカプセル内の利用者に異常があったときにすぐに対応できるように、係員はかならず装置の近くで準備しておいてください。



### カプセル内の利用者に、耳抜きができていないかを確認すること

- ・加圧中・減圧中は気圧の変化の影響で耳が痛くなり、『耳抜き』が必要となる場合があります。（この症状には個人差があります。）  
痛みを我慢して利用した場合、鼓膜を傷つけることがありますので、加圧時・減圧時には、カプセル内の利用者に耳抜きができていないかを一定時間ごとに確認し、「耳抜きができない」「痛い」などの返答があった場合は『耳抜き支援モード』を利用してください。
- ・『耳抜き支援モード』では気圧を一時的に下げたり止めたりして、耳抜きをしやすくします。
- ・どうしても耳抜きができない場合は、無理をせずにただちに利用を中止してください。

※詳細は 7、31、32 ページを参照してください。



### 落雷のおそれがあるときは電源プラグをコンセントから抜くこと

保管中に落雷があると、感電や故障の原因になることがあるので、電源スイッチ～ブレーカーの順に OFF にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

※使用中は 34 ページを参照してください。



# 注 意

## お手入れ・保管・その他



### お手入れ時の薬品の使用禁止

- ・カプセルや制御盤の表面をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、酸性／アルカリ性洗剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変色／変質の原因になります。
- ・汚れがひどい場合は、水または中性洗剤をつけて固く絞った布で拭いてください。
- ・ゴムパッキンを溶剤系の薬品で拭くと、ゴムが溶けたり劣化が早くなりますので使用しないでください。
- ・スライドドア（アクリル）は溶剤系の薬品で拭くと、ヒビ、割れが生じることがありますので使用しないで下さい。



### 操作器・制御盤への水や液体洗剤等の使用禁止

操作器・制御盤内部に水や洗剤等の液体がかかると、感電や火災、または故障の原因になります。



### 装置のお手入れを行なうときは電源プラグをコンセントから抜くこと

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



### 装置を長期間使用しないときはプラグを抜いておくこと

装置を長期間使用しないときや装置を移動させるときは、制御盤内のブレーカーを OFF にして、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。



### 電源プラグを持ってコンセントから抜くこと

電源コードを引っばるとコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



### 使用しないときに子どもの閉じ込みが懸念される場合は、ドアストッパーを利用してスライドドアが閉まらないように固定すること

- ・ドアストッパーは、本体搬入時にカプセル内に取り付けられています。
- ・スライドドアを全開にし、カプセル内足元側の左右のスライドレールカバーの黒いキャップをはずして、ドアストッパーを取り付けてください。



### 廃棄するときは産業廃棄物として取り扱うこと

- ・カプセルや操作器・制御盤および関係部品は、一般廃棄物（家庭ごみ）として処分しないでください。
- ・不法投棄は絶対にしないでください。
- ・産業廃棄物の取り扱いについては、各自自治体で条例等により定められています。くわしくはお近くの役所・役場にお問い合わせください。





## ご利用される方への注意

1. *Dream-Plus i* は医療機器ではありませんので、下記の方はご利用いただけません。

- 1) 心臓や脳に疾患のある方
- 2) 高血圧の方
- 3) インスリンを使用している方、低血糖症の方
- 4) 耳、鼻、のど、呼吸器に疾患のある方
- 5) 妊娠中の方、またはその可能性がある方
- 6) 風邪をひいている方、風邪ぎみの方
- 7) ペースメーカーを入れている方
- 8) その他体調不良、持病等のある方は、かかりつけの医師に相談した上でご利用ください。

2. 下記の方は、場合によってはご利用いただけません。

- 1) 現在、医者にかかっている方
- 2) 耳抜きができない方、気圧の変化に弱い方
- 3) 閉所恐怖症の方
- 4) 酒に酔っている方
- 5) 乳児、幼児

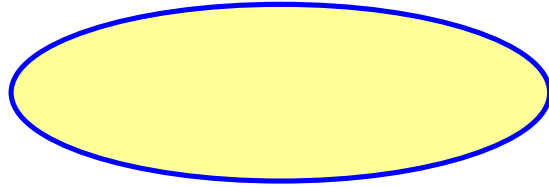
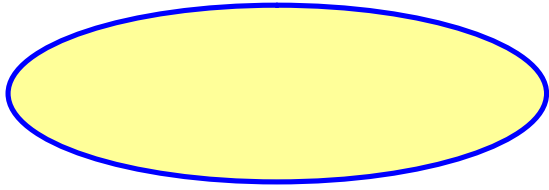
3. 加圧時・減圧時には、気圧の変化の関係で耳に違和感を生じ、『耳抜き』が必要となる場合があります。耳抜きがうまくできないときは、我慢しないで、カプセル内操作器の呼出ボタンで係員を呼び、『耳抜き』がうまくできないことを伝えてください。係員は操作器の『耳抜き』ボタンを押し『耳抜き支援モード』にして気圧を一時的に下げたり止めたりしますので、その間に耳抜きをおこなってください。耳の違和感が完全になくなったら『耳抜き支援モード』を終了してもらって、利用を続けてください。

- 1) 耳の違和感は、無理をして我慢するとひどくなり、痛くなることがあります。
- 2) どうしても耳抜きができない場合は、利用を中止してください。

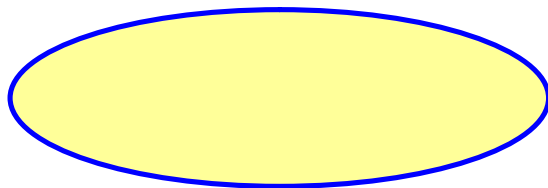
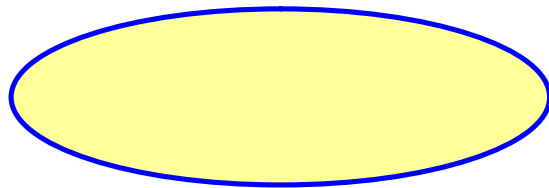
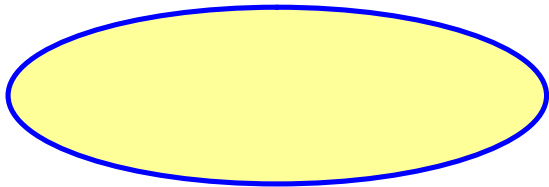
※『耳抜き』の詳細は31、32ページを参照してください。

4. カプセル本体は、通常の運転で使用する気圧に対しては十分な強度を持たせていますので破裂するおそれはありませんが、カプセル本体に傷がついたり穴があいたりすると事故につながるおそれがありますので、刃物や先のとがったものは絶対にカプセル内に持ち込まないでください。

決められた使い方以外の方法で使用して起こった事故については、弊社では一切の責任を負いません。



ご使用される前に



## Dream-Plus *i* とは

*Dream-Plus i* は、弊社独自の技術によって開発した『ヒーリング（癒し）効果がある健康器具』です。

大気圧よりも高い圧力（通常の 1.3 倍）のカプセルの中に入って、約 40～50 分間清浄な空気を呼吸しながら、ゆっくりおくつろぎいただくことにより、気分爽快、体がリラックスできます。

スポーツの後、会社帰り、気分転換にぜひご利用ください。

*Dream-Plus i* のカプセル（本体）はスチール製なので、十分な強度を持っています。また、出入口の開口が広いので出入りがしやすく、アクリル製の大きなスライドドアで開放感があり、中に入ってスライドドアを閉めても密閉されたという不安を感じることはありません。

カプセル内のベッドは適度な硬さで寝心地もよく、カプセル内の気圧が設定値まで上がった状態（1.30 気圧設定の場合で、水深約 3.0m の水圧に相当）のときに仮眠をとることによって、最大のリラクゼーション効果が得られます。

操作も簡単で、液晶操作器またはカプセル内操作器の『運転』ボタンを押すだけで自動運転がはじまり、設定時間の中で加圧～均圧～減圧が行われ、残り時間が 00 になり、気圧が 1.00 になると自動的に終了します。

*Dream-Plus i* で手軽に『高気圧空気ヒーリング』をお楽しみください。



- ※1. 本装置は薬事法で規定された医療機器ではありません。したがって、効能・効果等については記載していません。
- ※2. 本装置では医療診療報酬を伴う治療行為を行なうことはできません。
- ※3. 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

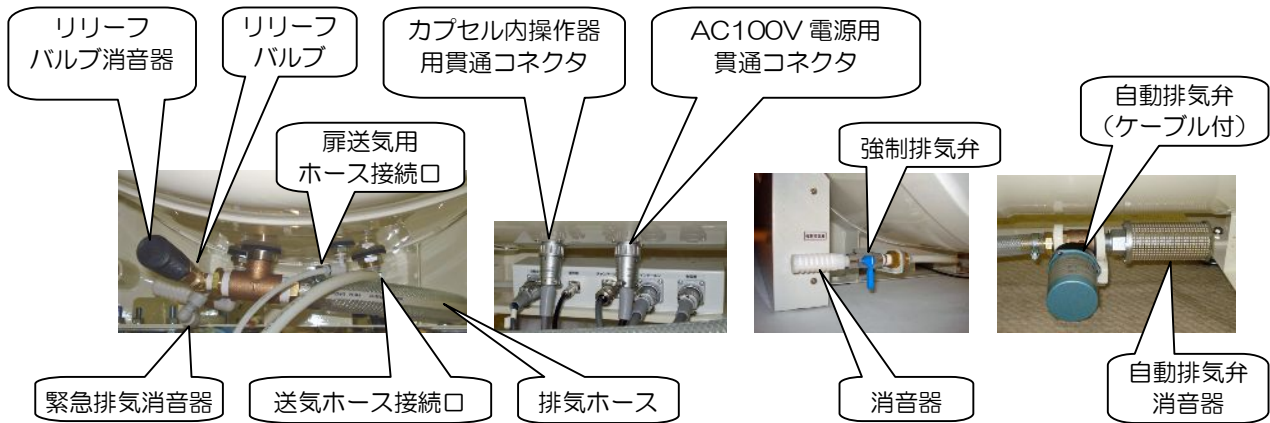
# 各部の名称

*Dream-Plus i*は、次の各機器で構成されています。

## 1 カプセル

### (1) 外観

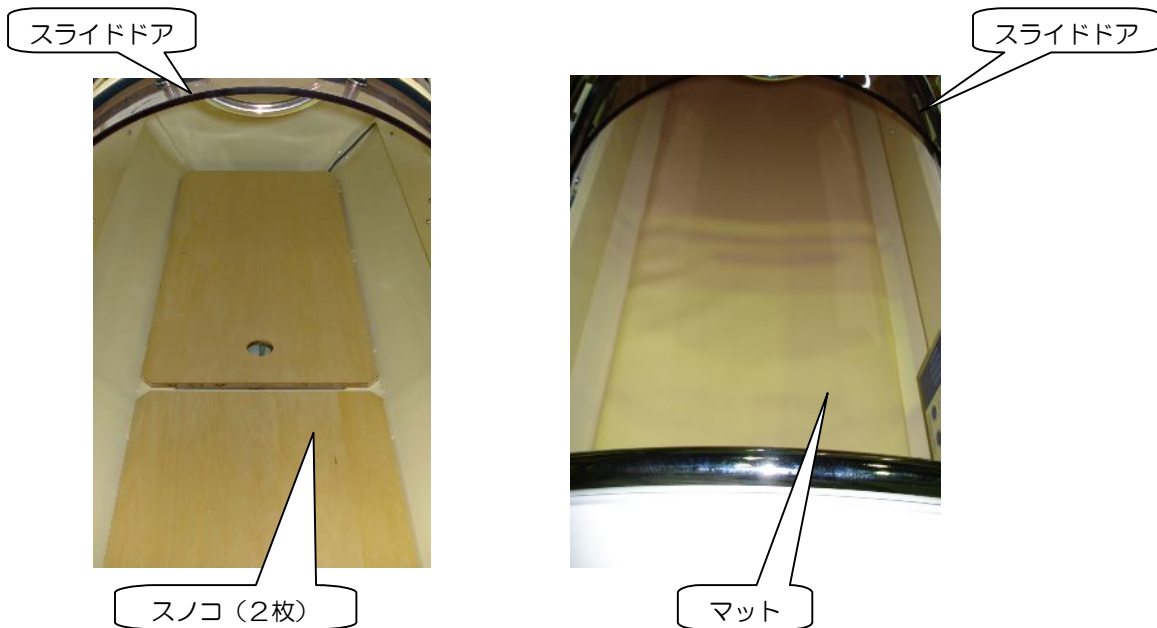
※仕様によっては、各種弁やボタン等の取り付けが左右反対になることがあります。



### (2) 内部 (配管・機器)

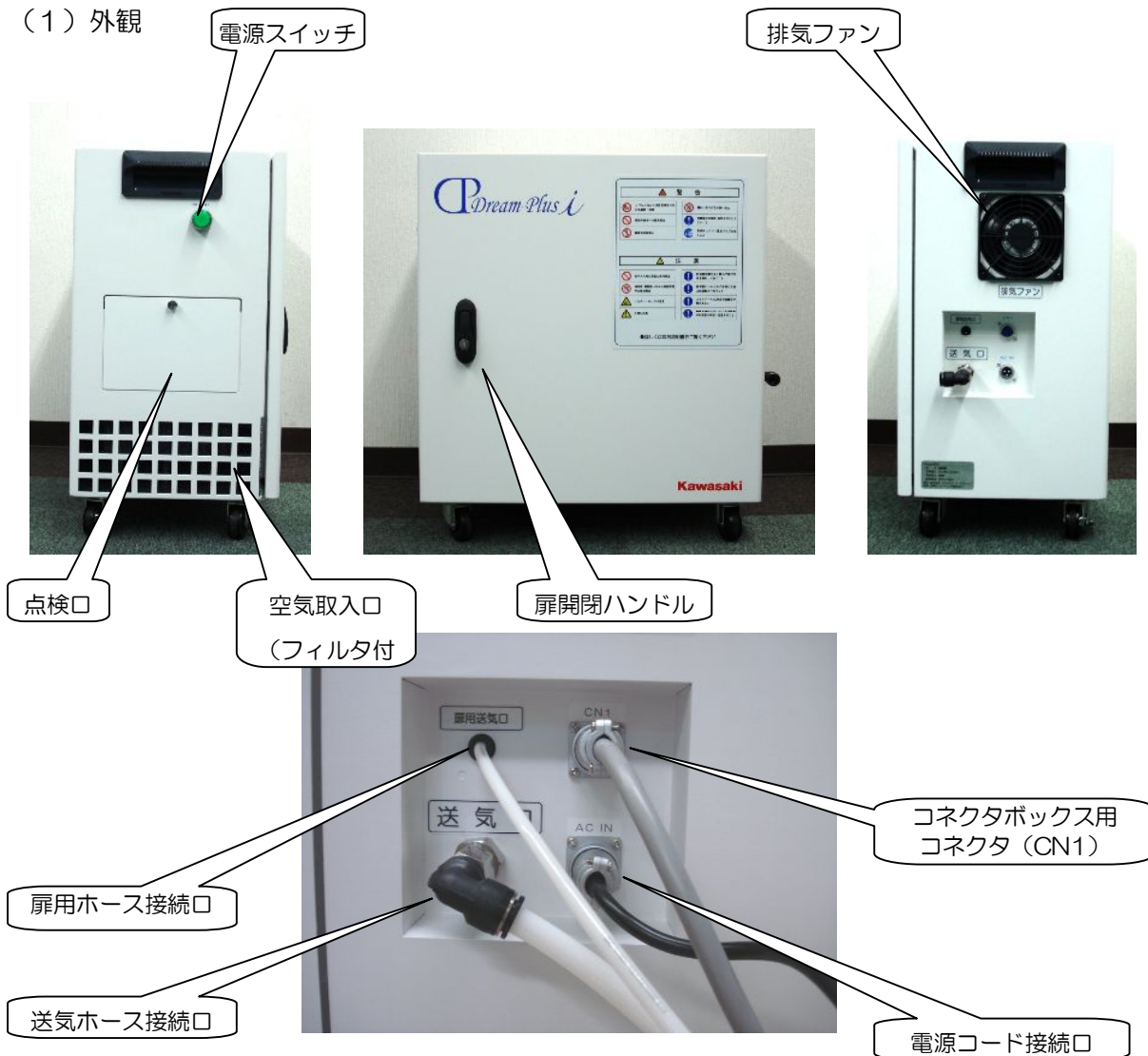


(3) 内部 (スライドドア用ガイドレール・ゴムパッキン・スノコ・マット)



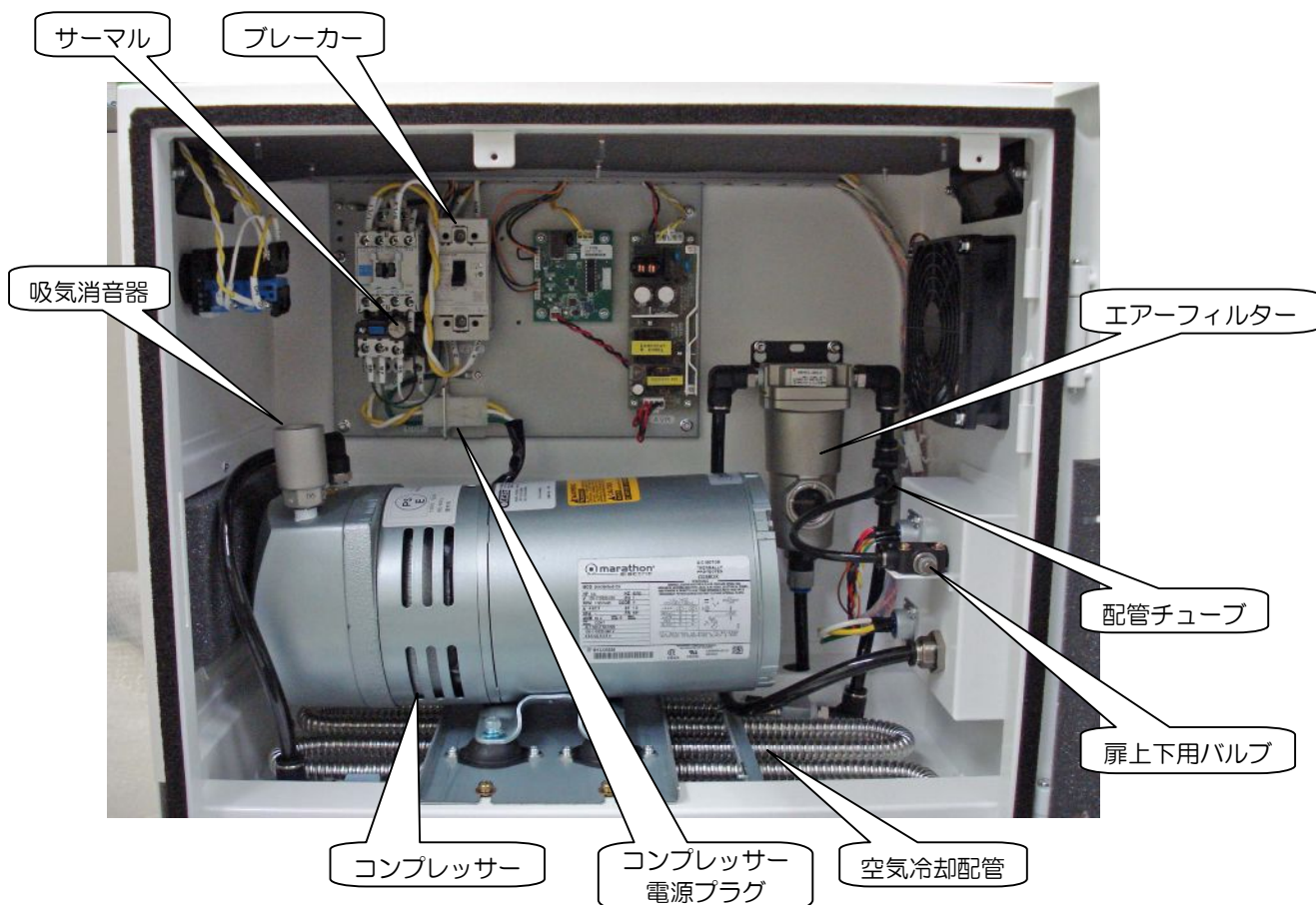
2 制御盤

(1) 外観

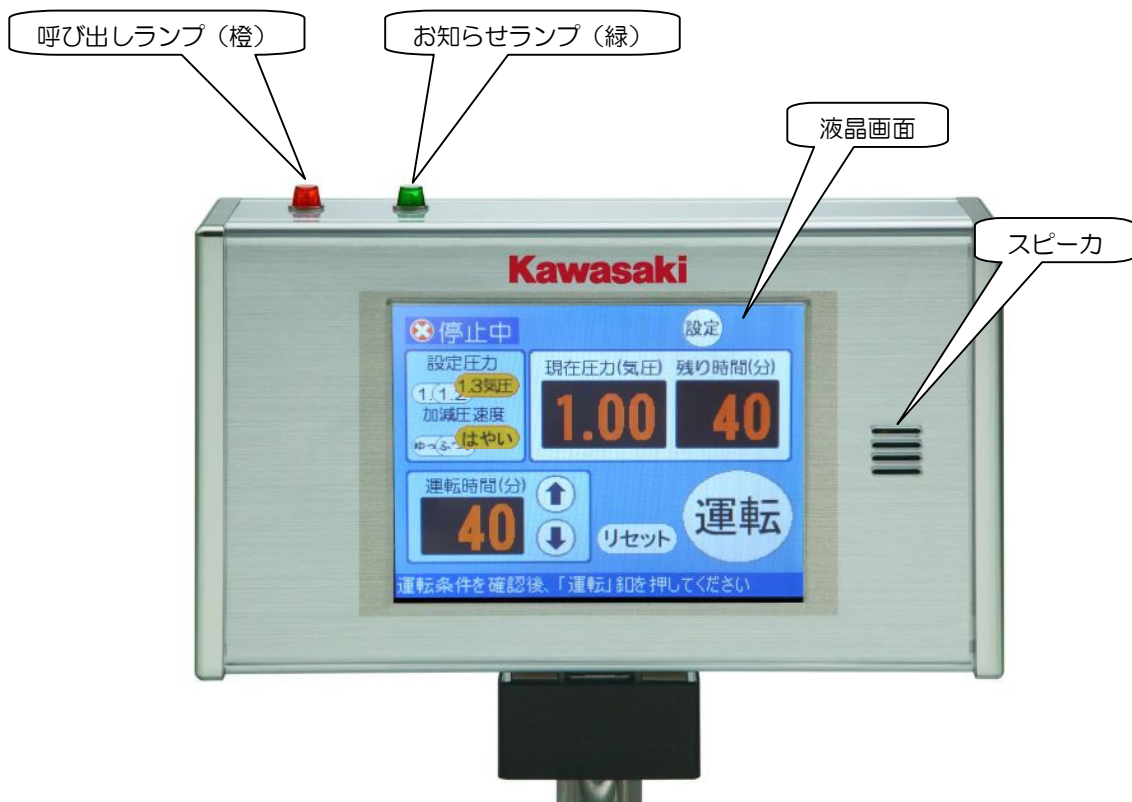




(2) 盤内



3 操作器

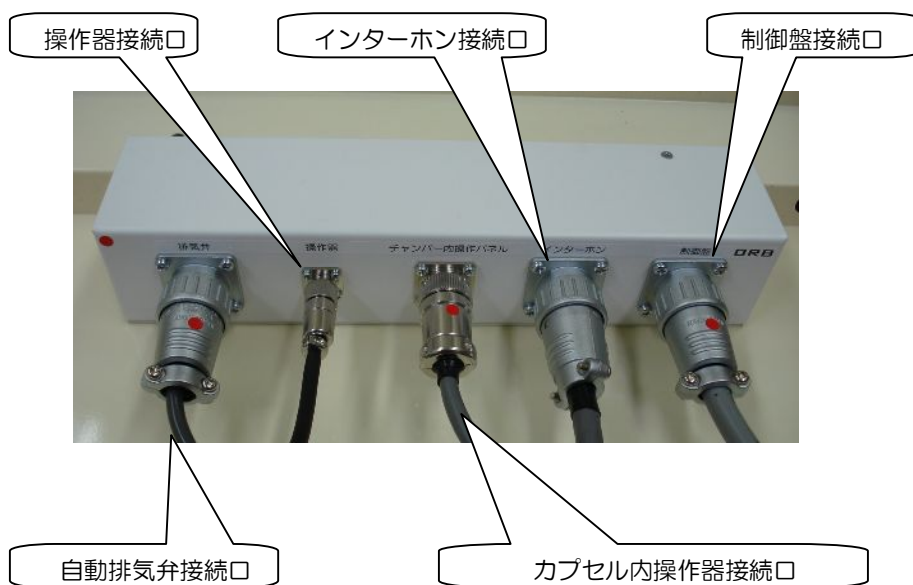




#### 4 カプセル内操作器



#### 5 コネクタボックス



#### 6 付属品

- (1) ドアストッパー (カプセル内足元側 左右各2本)



※ ドアストッパーは本体据付時には  
はずしてしまいましたが、4本とも  
大切に保管しておいてください。

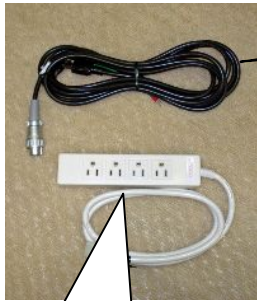
(2) インターホン（親機）



受話器

※ 使い方の詳細は、別途添付の「インターホン（ドアホン）の取扱説明書」を参照してください。

(3) 各種ホース/ケーブル



カプセル外電源コード

カプセル内用 AC100V 電源タップ



制御盤用電源コード



制御盤～コンネクタボックス間ケーブル

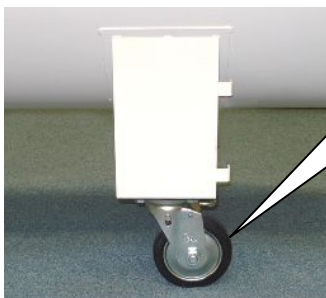
カプセル外部～コンネクタボックス間ケーブル

(4) 停電センサーライト



7 オプション品

ストッパー付キャスター（別売）



ストッパー付キャスター（4個）

# 制御機能説明

## 1 操作器（液晶画面）



(1) 電源を入れると初期化画面に続き、上記の画面が表示されます。

設定圧力「1.3 気圧」、加減圧速度「ふつう」、運転時間「40 分」が出荷時に設定されています。

初期設定値は別途変更することが可能です。

設定変更のしかたは 18 ページを参照して下さい。

## (2) 各ボタンの説明

### ① 『運転状況表示』

「加圧中」 「運転」ボタンが押された時点で表示する。

(加圧時の耳抜き中も「加圧中」と表示する)

「均圧中」 加圧終了時に表示する。

「減圧中」 均圧が終了し、減圧が開始された時点で表示する。

(減圧時の耳抜き中も「減圧中」と表示する)

「途中終了中」 何らかの原因により故意に終了し「停止」ボタンを押した時

「運転終了」 正常に運転が終了した場合

「途中終了」 何らかの原因により故意に終了した場合

「扉開放可」 扉を開けることが出来る状態になった時

「警報」 各種警報が発生した時

## ②『設定圧力変更ボタン』

ボタンを押すことで希望の圧力に変更でき、圧力の変更は点灯しているボタンを押すことにより行います。

押すたびに「1.1 気圧」→「1.2 気圧」→「1.3 気圧」の順番で表示が変更し、点灯している項目が現在の選択項目を示すのと同時にメッセージが表示されます。

圧力の変更は運転前および運転中（加圧中および均圧中）に行うことができます。

本操作はカプセル内操作器でも行うことができます。

## ③『加圧速度変更ボタン』

ボタンを押すことで希望の加圧速度に変更でき、加圧速度の変更は点灯しているボタンを押すことにより行います。

押すたびに「ゆっくり」→「ふつう」→「はやく」の順番で表示が変更し、点灯している項目が現在の選択項目を示すのと同時にメッセージが表示されます。

加圧速度の変更は運転前のみに行うことができ、運転中は変更する事ができません。

本操作はカプセル内操作器からは行う事は出来ません。

・加圧・減圧の速度は下記を参照して下さい。

「1.3 気圧」「ゆっくり」 : 加圧10分/減圧10分

「1.3 気圧」「ふつう」 : 加圧 7分/減圧 7分

「1.3 気圧」「はやく」 : 加圧 5分/減圧 5分

「1.2 気圧」「ゆっくり」 : 加圧10分/減圧10分

「1.2 気圧」「ふつう」 : 加圧 7分/減圧 7分

「1.2 気圧」「はやく」 : 加圧 5分/減圧 5分

「1.1 気圧」「ゆっくり」 : 加圧10分/減圧10分

「1.1 気圧」「ふつう」 : 加圧 7分/減圧 7分

「1.1 気圧」「はやく」 : 加圧 5分/減圧 5分

## ④『運転時間変更ボタン』

運転時間の設定/変更は「↑」および「↓」ボタンを押すことで行います。1回押すと1分ずつ増減し、長押しすると10分ずつ増減します。

運転開始前の設定可能範囲は20~120分とし、運転中（加圧中と均圧中）でも時間を延長/短縮することができます。また、運転中での延長時間は開始から最長120分以内とし、同様に短縮時の最短時間は減圧に要する時間とします。

本操作はカプセル内操作器からは行う事はできません。

## ⑤『運転/停止ボタン』

ボタンを押すことで運転を開始し、「運転」ボタンは「停止」ボタンに変更します。

また、「停止」ボタンを押すことで「途中終了」することができ「停止」ボタンはそのまま表示されます。

## ⑥『耳抜き ボタン』

加圧中、均圧中および減圧中に利用者の耳抜きが出来なかった場合、ボタンを押すことで一時的な対応を行います。

このボタンは電源投入時など必要でないときは非表示とし、機能が有効な状態時のみ表示されます。

### ・耳抜きが有効な条件

加圧時：1.08気圧以上

減圧時：1.05気圧以上

### ・耳抜き動作

加圧時：現状圧力から30秒で0.05気圧降下して圧力を維持

そのまま何もしなければ30秒で加圧を開始します。再度、「耳抜き」ボタンを押すとその時点で加圧開始

減圧時：その時点の圧力を保持

そのまま何もなければ60秒で減圧を開始します。再度、「耳抜き」ボタンを押すとその時点で減圧開始

## ⑦『リセットボタン』

ボタンを押すことにより運転時間表示および運転コースが電源投入直後と同じになり、同時に電子音の停止および各種表示が初期化されます。

### ・運転開始前に押すと設定は初期化されます。

運転時間 : 40分（初期設定で変更可能）

設定圧力 : 1.3気圧（初期設定で変更可能）

加減圧速度 : ふつう（初期設定で変更可能）

「扉開放可」表示 : 「運転」ボタン表示

扉開放可電子音 : 停止

お知らせランプ点滅 : 消灯

「運転終了」 or : 「停止中」表示

「途中終了」表示

### ・運転中においても有効な機能

電子音 : 停止

警報表示&メッセージ : 異常が解消されていればメッセージは消えます。

お知らせランプ : 異常が解消されていればお知らせランプは消え、異常発生前の状態に戻ります。

## ⑧『設定ボタン』



その他の画面 {言語の変更、PIDパラメータの変更、I/Oパラメータ変更、運転評価データの表示} については絶対に触らないで下さい。

### ・初期設定値の変更画面

設定圧力 (1. 1気圧 / 1. 2気圧 / 1. 3気圧)

加減圧速度 (はやく / ふつう / ゆっくり)

運転時間 (20 ~ 120分)

内容変更後は必ず「確定」ボタンを押して下さい。確定した内容は電源 OFF 後も保持されます。

## ⑨お知らせランプ (緑) の状態について

○ : 消灯   ● : 点灯

消灯 : ○○○○○○○○○○○ 停止中を示します。

点灯 : ●●●●●●●●●● 運転中を示します。

点滅1 : ●●○●●○●●○●● 自動運転終了を示します。

点滅2 : ●●●○●●●○●●● 扉開放可を示します。

点滅3 : ●○●○●○●○●○● 異常警報発生を示します。

## ⑩呼び出しランプ (橙) の状態について

カプセル内操作器の「呼び出しボタン」を押した時に15秒間点滅します。

橙色で点滅を表示する。

○ : 消灯   ● : 点灯

点滅 : ●●○●●○●●○●●



## 2 カプセル内操作器

### (1) 各ボタンの説明

#### ①「BGM音量ボタン」

△ボタン（大きく）、▽ボタン（小さく）を使用してBGMの音量を変更することができます。

※BGMについて

標準のBGMが登録されており、登録された曲がエンドレスに再生されます。

#### ②「設定圧力変更ボタン」（誤操作防止のため通常より長押しして下さい）

操作器の「設定圧力変更ボタン」と同機能です。

#### ③「運転／停止ボタン」（誤操作防止のため通常より長押しして下さい）

操作器の「運転／停止ボタン」と同機能です。

#### ④「呼出ボタン」（誤操作防止のため通常より長押しして下さい）

ボタンを押すことでカプセル外部と通話することができます。また、操作器の呼出ランプ（橙）を15秒間点滅させると同時に親機の呼出音もなります。

#### ⑤「耳抜きボタン」（誤操作防止のため通常より長押しして下さい）

操作器の「耳抜き」と同機能です。

#### ⑥「緊急ボタン」（誤操作防止のためカバー付き）

緊急時にボタンを押すことにより「ランプが点灯（強）」し、カプセル内部からコンプレッサーを強制的に停止することができます。

以降は自動的に減圧モードへ移行し約4分30秒（1.3気圧コース選択時）～1分30秒（1.1気圧コース選択時）で大気圧（1.00気圧）まで下げるように制御します。

また、別途カプセル内に装備される「緊急排気弁」を併用（全開）することにより、より早く大気圧状態（1.00気圧）に戻すことができます。



緊急ボタンを押した時はコンプレッサーが停止した後、大気圧に戻る時にスライドドアが落下音とともに自然に落下しますが、異常ではありません。

#### ・緊急ボタンのみの場合

1.3気圧からの減圧時間：約4分30秒

1.2気圧からの減圧時間：約3分

1.1気圧からの減圧時間：約1分30秒

#### ・緊急排気弁を併用した場合

1.3気圧からの減圧時間：約1分45秒

1.2気圧からの減圧時間：約1分20秒

1.1気圧からの減圧時間：約45秒

### (2) USBコネクタ

LEDライトなどの使用できるように、USB電源を2カ所装備しています。



電源容量：Max.300mA（2カ所の合計）をオーバーすると、誤動作をする可能性があります。

使用するUSB機器の電源容量には十分に注意して下さい。

### (3) 電子音およびお知らせランプ機能について

#### ①自動運転終了のお知らせ

自動運転および途中終了操作により終了した時に最初の電子音が鳴りお知らせランプが点灯から点滅1へ変わります。

※詳細は 18 ページを参照して下さい。

#### ②扉開放可のお知らせ

アクリルドアを開かれる状態になったときに2度目の電子音が鳴りお知らせランプが点滅1から点滅2へ変わります。

※詳細は 18 ページを参照して下さい。

#### ③警報のお知らせ

警報が発生した場合に連続電子音が鳴りお知らせランプが点滅3に変わります。また、この時にメッセージ表示部にエラーメッセージを表示します。

※詳細は 18 ページを参照して下さい。

### (4) メッセージについて

#### ①メッセージ表示部に表示されるメッセージ一覧

##### 通常メッセージ

『運転条件を確認後、「運転」を押してください』 ← 「運転」押すと消去

『運転中です』 ← 運転中に表示。他のメッセージ発生で消去

『上限圧力が 0.0 気圧に変更されました!』 ← 他のメッセージ発生または 5 秒後に消去

『運転時間が 000 分に変更されました!』 ← 他のメッセージ発生または 5 秒後に消去

『120 分を超える時間延長はできません』 ← 他のボタンを押した時または 5 秒後に消去

『減圧中には運転条件の変更はできません』 ← 他のボタンを押した時または 5 秒後に消去

『運転中は加減圧速度の変更はできません』 ← 他のボタンを押した時または 5 秒後に消去

『減圧時間より短い変更はできません』 ← 他のボタンを押した時または 5 秒後に消去

##### 異常時のメッセージ

『E1 測定圧力値上限警報 途中終了します』 ← リセットで消去

『E2 偏差上限警報 途中終了します』 ← リセットで消去

『E3 偏差下限警報 途中終了します』 ← リセットで消去

『E4 トリップ警報 (コンプレッサ停止等) 途中終了します』 ← リセットで消去

『E5 欠番』

『E6 通信異常 (操作器一缶内パネル間) 途中終了します』 ← リセットで消去

『E7 通信異常 (操作器一制御盤間) 途中終了します』 ← リセットで消去

『E8 欠番』

『E9 非常停止警報 途中終了します』 ← リセットで消去

※異常メッセージはリセットボタンを押した時点で、異常が解消されていれば消去されます。

※異常メッセージの対応は P42、43 をご覧下さい。

## ②ポップアップで表示されるメッセージ一覧

### 1) 異常発生時、途中終了時の減圧中に表示

『減圧しています。そのままお待ちください』 ← 運転終了状態で消去

### 2) 自動運転終了時に表示

『自動運転終了。「停止」を押してください』 ← 「停止」押して消去

### 3) 運転終了後アクリルドア開放可になるまで表示

『ドア開放可になるまで少しお待ちください』 ← 扉開放可状態で消去

### 4) アクリルドア開放可で表示

『ドアを開けて「リセット」を押してください』 ← 「リセット」押して消去

## 3 付属品

### (1) カプセル内用 AC100V 電源タップ

カプセル内で使用できるように、電源タップを装備しています。



電源容量：Max.500W（合計）以内でご使用下さい。

使用する機器の電源容量には十分に注意して下さい。

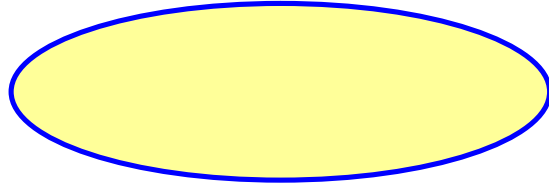
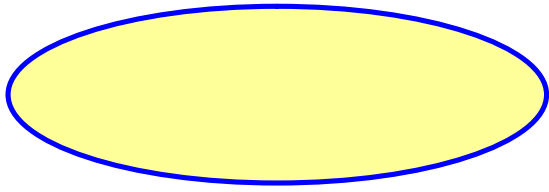
## 安 全 機 能

### 1 異常警報が発生した場合

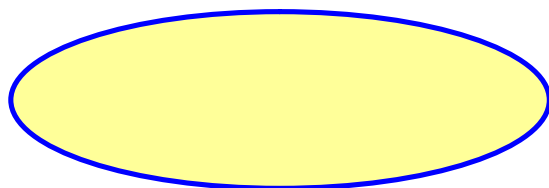
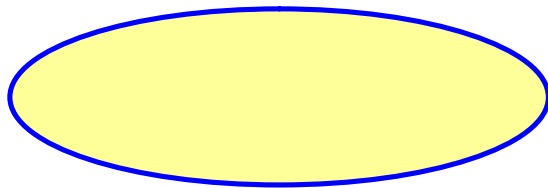
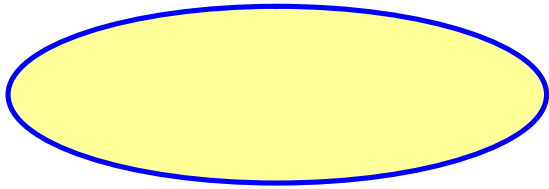
電子音・ランプおよび異常時のメッセージ表示を出力し異常を知らせると共に自動的に減圧モードに移行し最速の減圧速度（約 0.06 気圧/分）で大気圧（1.00 気圧）まで下げます。

### 2 緊急ボタンが押された場合

緊急時にはカプセル内部の緊急ボタンを押すことで、カプセル内からコンプレッサーを強制的に停止することができます。以降は自動的に減圧モードに移行し最速の減圧速度（約 0.06 気圧/分）で大気圧（1.00 気圧）まで下げます。



操作のしかた



# 操作するには

*Dream-Plus i* を運転するには、操作器・カプセル内操作器にあるボタンを操作します。  
ここでは実際の運転の流れに沿って運転操作を説明します。

## 1. 運転する前に

*Dream-Plus i* を運転する前には次の準備をしてください。

- ① 制御盤の電源プラグをコンセントに確実に差し込みます。



濡れた手で行わないで下さい。感電のおそれがあります。

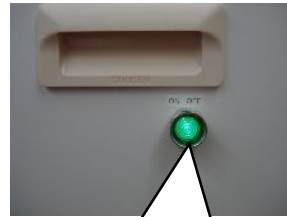


アース線はアース端子にしっかりと接続してください。

- ② 制御盤の扉を開け、ブレーカーを「ON」にして扉を閉め、制御盤左側面の電源スイッチを押して「ON」にします。



レバーを上げる  
→ON



ボタンを押してランプ  
点灯で→ON

・このとき、制御盤右側面の排気ファンが回転し始めて、操作器の各種ランプが点灯することを確認してください。

中のファンがまわり始める

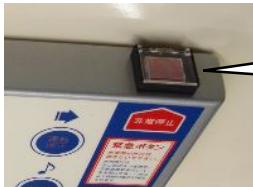


排気ファン

各種表示・ランプが点灯



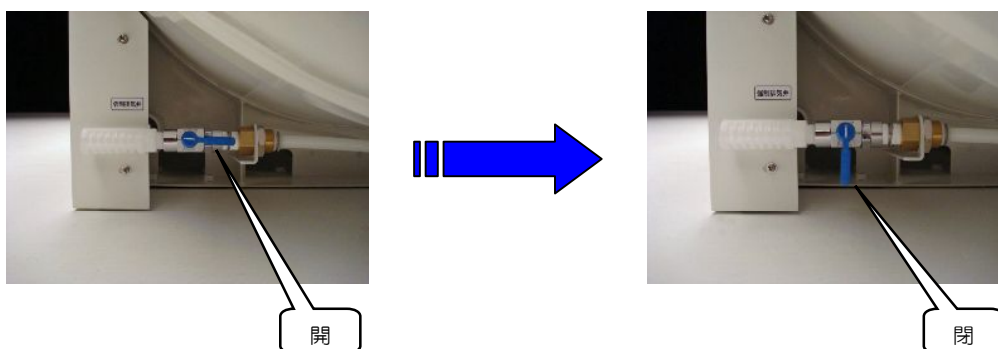
- ③ 緊急ボタンが押されていないことを確認します。



「ON」(点灯/強) になっていればもう 1 度押して  
「OFF」(点灯/弱) にする  
ボタンの「ON」「OFF」操作は透明カバーを開き操作します

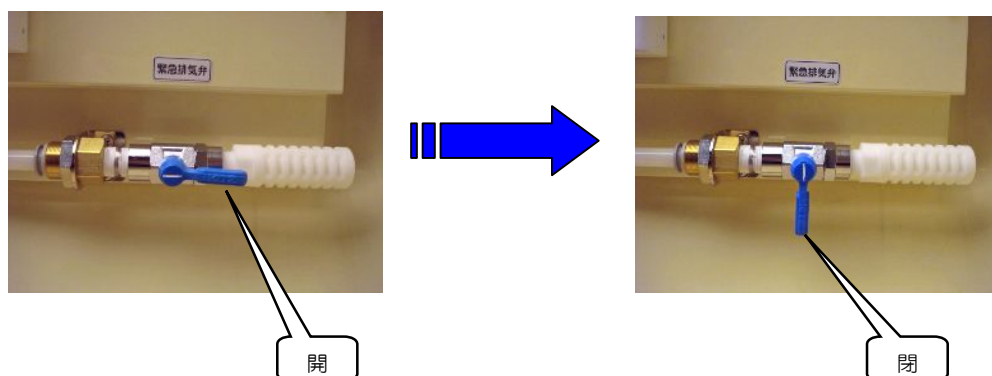
④ カプセル外側の強制排気弁のレバーを垂直方向に向けて、弁を閉めます。

- ・レバーを水平方向にすると弁が開いて、コンプレッサーから送られた空気がここから排出されてしまいます。  
※カプセルの左右方向の使い勝手によっては、強制排気弁の向きが反対になる場合があります。



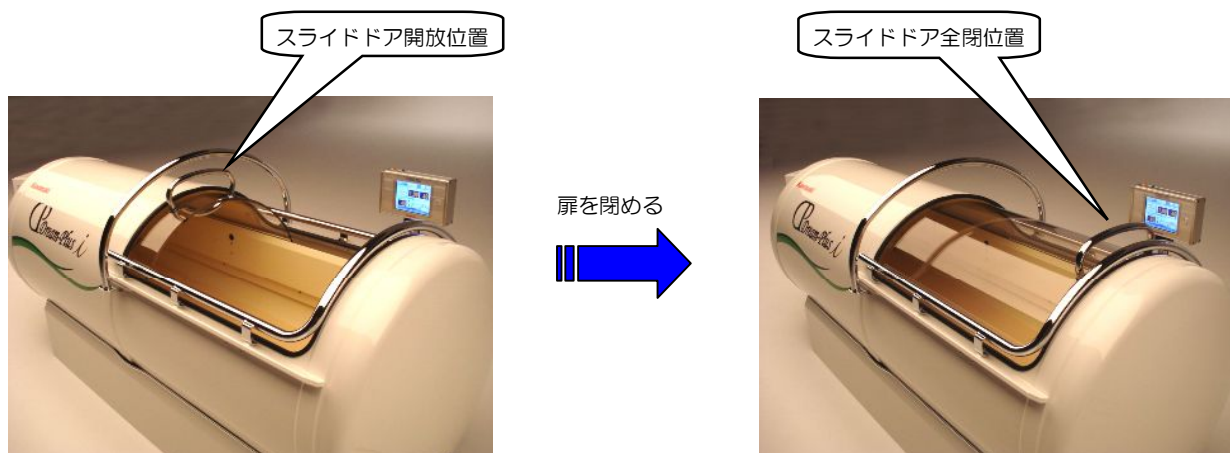
⑤ カプセル内側の緊急排気弁のレバーを垂直方向に向けて、弁を閉めます。

- ・レバーを水平方向にすると弁が開いて、コンプレッサーから送られた空気がここから排出されてしまいます。



⑥ スライドドアを開放位置から全閉位置までスライドさせて密閉します。

- ・スライドドアの開閉時には、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりしないように注意して開閉操作を行ってください。





## 2. 確認運転をする

各排気弁を閉め、スライドドアを閉め確認運転をして、異常がないことを確認してください。

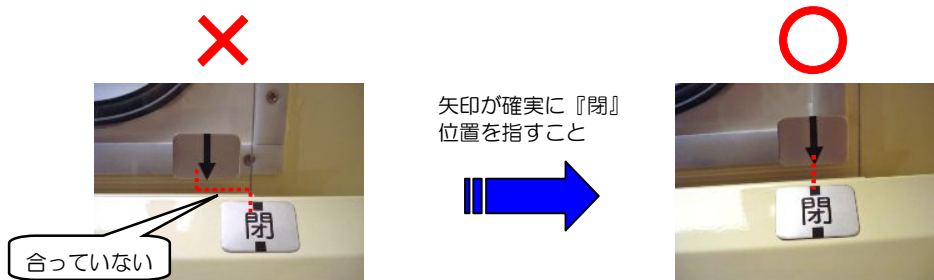
1日のはじめには、かならず確認運転をして、各部に異常がないか確認してください。

※確認運転は、カプセル内に利用者が入っていない状態でおこないます。

※ここでの、運転コースは工場出荷時の設定（1.30気圧、ふつう）で説明しています。

### ① カプセルのスライドドアが完全に『閉』状態にあることを確認します。

・密閉が不完全で圧力が上がらない場合や、スライドドアが『閉』状態にない場合には、カプセルを痛めるおそれがありますので、しっかり『閉』位置まで閉まっていることを確認します。



・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。  
・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、十分に注意してください。

### ② 操作器の運転時間表示が設定値(工場出荷時の設定は 40)になっていることを確認します。

※運転時間は 20分～120分(2時間)の間で設定可能です。

設定変更は、16ページを参照してください。

### ③ 操作器の『運転』ボタンを押します。

・制御盤内のコンプレッサーからカプセルに空気が送られて加圧が始まり、操作器の残り時間表示がカウントダウンをはじめます。

※1. 圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。

※2. 制御盤内のコンプレッサーが動いていることを“音”で確認してください。

\*運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。



カプセル内の気圧が上昇するときに、カプセルがきしむような音がする場合がありますがこれは、スライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられるときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。

④ カプセルのスライドドアのゴムパッキン部や、強制排気弁、緊急排気弁から空気が漏れていないことを確認します。また、制御盤から異常な音がしたり、においや煙が出たりしていないことを確認します。

- ・強制排気弁や緊急排気弁から空気が漏れている場合は、レバーを垂直方向にして弁を閉めてください。
- ・スライドドアが完全に閉まっていない場合には、スライドドアとゴムパッキンとの間から空気が漏れだして、「シュー」という音がし、カプセル内の気圧が上がりません。『運転』ボタンを押してから1分経過しても圧力表示が1.03気圧以下の場合、『停止』ボタンを押して終了操作をし、カプセル内の気圧が1.00気圧になって操作器の状態表示ランプの『扉開放可』が点灯したらスライドドアを閉め直して、もう一度運転を開始してください。
- ・少しでも異常があるときはただちに運転を中止して異常の原因を調べ、修理などの対処をしてください。原因がわからないときは、お買い上げ取扱店にご連絡ください。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

⑤ 操作器の圧力表示が1.30気圧に達して、状態表示ランプの『均圧中』が点灯したら、さらに数分間運転して、異常がないことを確認します。

- ・運転開始後約7分で、1.30気圧に到達します。

⑥ 1.30気圧の状態（均圧状態）でしばらく運転して、異常がないことが確認できたら、操作器の『停止』ボタンを押して終了操作をします。

- ・『停止』ボタンを押すと、『途中終了中』を表示して終了処理に入り、コンプレッサーから空気を供給しつつ、カプセル内の気圧を下げます。



カプセル内の気圧が下がる時に、カプセルがきしむような音がする場合がありますがこれは、スライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられていたものが、離れていくときにスライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。

⑦ 操作器の運転時間表示が00分を示し、圧力表示が1.05気圧よりも下がり、最初の電子音が鳴りましたら、『停止』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・コンプレッサーと電子音は、『停止』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、カプセル内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が1.00気圧に近づきます。

⑧ 操作器の圧力表示が1.00気圧になりスライドドアが開ける状態になると再度電子音となり『扉開放可』が表示されますのでカプセルのスライドドアを開けます。操作器の『リセット』ボタンを押して電子音を止めて下さい。

- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

### 3. 運転する

確認運転で異常がないことが確認できたら、さっそく運転してみましょう。

※ここでは、運転コースは工場出荷時の設定（1.3気圧、ふつう）で説明しています。

設定変更は16ページを参照してください。

#### ① カプセルの中に入る利用者の持ち物をチェックします。

・持ち込みが禁止されているものは、一時的に預かるなどしてカプセル内に持ち込まないようにしてください。

＜持ち込みが禁止されているもの＞



- ・マッチ・ライター・たばこ・カイロ・可燃性液体などの発火・引火しやすいもの
- ・ナイフ・はさみなどの刃物類や、キリ・ドライバーなど先のとがったもの
- ・湯タンポ・ペットボトル・紙パック飲料などの密閉容器類（破裂するおそれがあります。）
- ・飲食物／薬品類

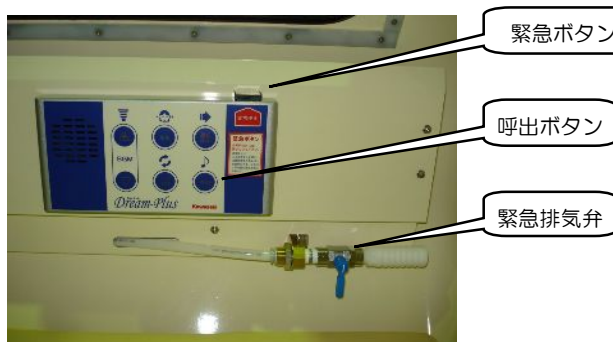
#### ② カプセルの中に入る利用者に、『耳抜き』の説明、緊急時の説明、注意事項の確認などを行ないます。

・中に入る人には充分理解してもらってください。

※ 『耳抜き』については31ページ『利用中に耳が痛くなったら・・・』、32ページ『耳抜き支援モードを利用するには・・・』を参照してください。

※ 緊急時の対応については33ページ『緊急時には・・・』を参照してください。

※ カプセル内に設置されている「緊急ボタン」、「呼出ボタン」、「緊急排気弁」については必要時以外には使用しないよう説明してください。



※通常は使用しないようにして下さい。  
OFFであることを確認  
してください

#### ③ カプセルのスライドドアを開放して、利用者にカプセルの中に入ってもらいます。

・カプセルの出入口周囲の角に、手足や体をぶつけないように注意してください。

・体をカプセル内部にスライドし、あお向けになる時に頭部をカプセルと接触しないように注意して下さい。

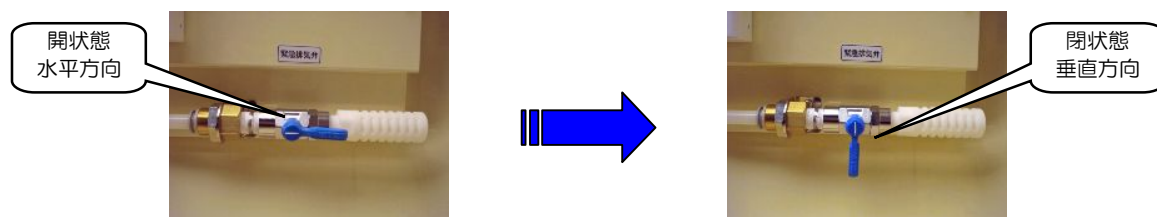


- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

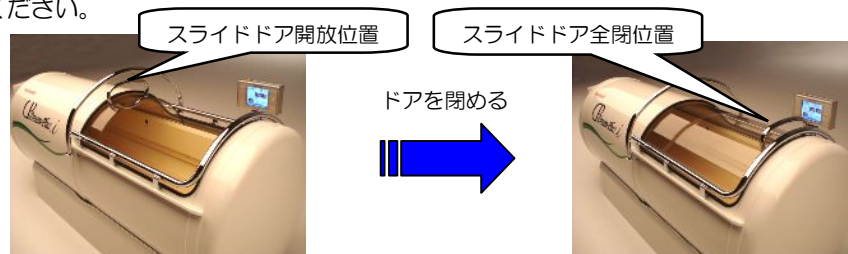
利用者には、スライドドアの方に頭がくるように入って、あお向けになってもらいます。


・利用者の準備がおわったら、インターホンおよび緊急排気弁の説明を行い、それぞれの作動確認を行ってください。

④ カプセル内の緊急排気弁が閉まっていることを確認したあと、スライドドアを閉めます。



- ・スライドドアの開閉時には、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりしないように注意して開閉操作を行ってください。





- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

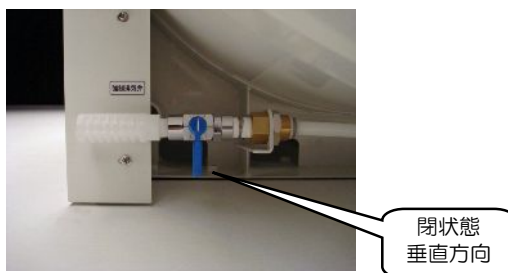
- ・スライドドアを完全に閉め、スライドドアについている矢印が『閉』の位置を指していることを確認します。



- ・カプセル内操作器の呼出ボタンを押して親機から呼び出し音が聞こえた後に、親機の手話器を取ってカプセル内の利用者と会話をしてお互いの声が聞こえることを確認してください。

⑤ 強制排気弁のレバーが垂直方向を向いていることを確認します。

- ・レバーが水平方向を向いているときは、レバーをまわして垂直方向に向けて閉めてください。



⑥ 操作器の運転時間表示が設定値(工場出荷時の設定は 40)になっていることを確認します。

## ⑦ 操作器の『運転』ボタンを押すと、自動運転が始まります。

- ・制御盤内のコンプレッサーからカプセルに空気が送られて加圧が始まり、操作器の残り時間表示がカウントダウンをはじめます。

※1. 『運転』ボタンを押す前に、利用者の様子を確認しながら運転を始めることを、インターホンを使用して知らせてください。

※2. 圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。

※3. 制御盤内のコンプレッサーが動いていることを“音”で確認してください。

\*運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。



- ・圧力表示の数値が上がりはじめてから気圧が安定するまでの間は、カプセル内の利用者は耳に違和感を感じるので耳抜きをしてもらう必要がありますが、うまくできない場合は耳が痛くなることがあります。また、我慢して利用し続けると、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。(症状には個人差があります。)
- ・これを防ぐために、加圧中にはカプセル内の利用者に耳が痛くなっていないかを何度か確認して、利用者から「耳抜きができない」「耳が痛い」などの返答があった場合は、『耳抜ボタン』を押して**耳抜きを実行**にしてから、あらためて耳抜きをしてもらってください。
- ・耳抜き支援モードでは、カプセル内の気圧を一時的に下げるので、耳抜きがしやすくなります。
- ・耳抜き支援モードを開始して1分経過すると、耳抜き支援モードにはいる前の状態に戻りますが、何度でも利用できます。ただし、運転時間は最初に設定した時間です。自動的に延長はしません。
- ・耳抜き支援モードを利用しても耳抜きがうまくできない場合は、無理をせずに『運転停止』を押して強制終了してください。

※詳細は 31、32 ページを参照してください。

## ⑧ 操作器の運転時間表示が 00 分になって、圧力表示が 1.05 気圧よりも下がって電子音が鳴ったら、『停止』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・この時点で利用者に、インターホンをつうじてもうすぐ終了することを伝えてください。
- ・コンプレッサーと電子音は、『停止』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、カプセル内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が 1.00 気圧に近づきます。

## ⑨ 操作器の圧力表示が 1.00 気圧になりスライドドアが開かれる状態になると電子音がなり『扉開放可』が表示されますのでカプセルのスライドドアを開けます。操作器の『リセット』ボタンを押して電子音を止めて下さい。

- ・この時点で利用者に、終了したので扉を開けることを伝えてください。
- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。

## ⑩ カプセルのスライドドアを開けて、利用者に出てもらいます。

- ・カプセルの出入口周囲の角に、手足や体をぶつけたりしてけがをしないように注意してください。



利用者が、つづけてご利用される場合には、カプセル内部の「臭いや湿気」を取り除くために 10 分間程度スライドドアを開放して、内部の空気の入れ替えを行っていただくことをお勧めいたします。



カプセル内の気圧が変化するとき、カプセルがきしむような音がする場合がありますがこれはスライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられたり、はなれたりするときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。



## 4. 1日の運転がおわったら

1日の運転がおわったら、次の作業を行なってください。

### ① カプセルのスライドドアを開放して、内部の空気を入れ替えるようにします。

- ・カプセル内部ににおいや湿気が残り、翌日の利用者が不快感を持たれる場合があります。
- ・カプセル内でシーツやタオルケット等を使用している場合は、カプセルから出して、クリーニングしてください。



- ・日常の使用がおわった場合は、カプセル内の空気を入れ替えるために、スライドドアを閉めずに開放しておいてください。
- ・1週間以上使用しない場合は、スライドドアを閉めて保管してください。

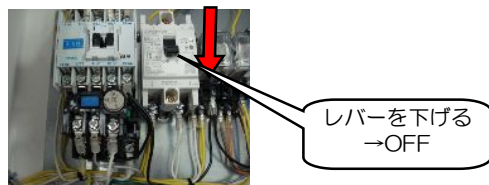
### ② 制御盤左側面の電源スイッチを押して「OFF」にします。

通常はこの操作だけで終了します。



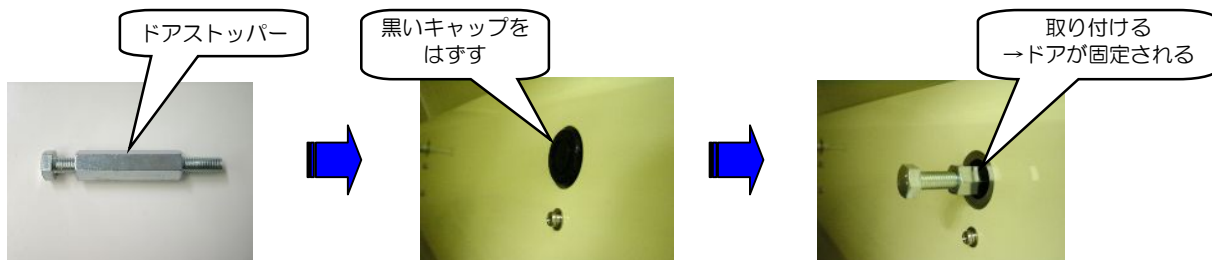
※操作器の各種ランプが消灯して、制御盤右側面の排気ファンのモーター音が止まることを確認してください。  
(ファン自体はしばらくの間、惰性でまわります。)

長期間使用しない場合は、制御盤の扉を開けてブレーカーを「OFF」にして、扉を閉めます。



長期間使用しないときや、カプセル本体を移設するとき、また子どもの閉じ込みが懸念されるときは、カプセルのスライドドアを全開にして、カプセル内足元側の左右のスライドレールカバーの黒いキャップをはずしてドアストッパー（4カ所）を取り付け、スライドドアが閉まらないようにしてください。

- ・カプセル本体を移設するときは、スライドドアが動かないように固定します。



ドアストッパーは外れないようにしっかりと取り付けて下さい。

ドアストッパーが外れた場合、子どもがカプセルの中で遊んでいて、スライドドアを閉めて閉じ込められてしまったり、窒息するおそれがあります。



## 利用中に耳が痛くなったら・・・

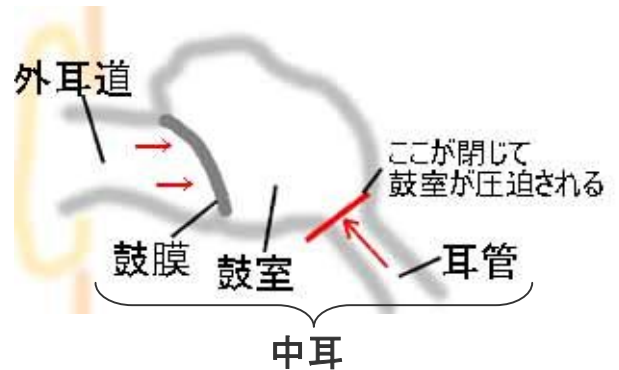
### 1 加圧・減圧による聴器障害

『加圧・減圧による聴器障害』とは、聴器（耳）の内部と外部の圧力差によって組織が変位・変形することにより引き起こされる障害です。

このような状況下では、早期にその部位に違和感や痛み（車で山に登っていくときやダイビングで潜水するとき、あるいは飛行機で離着陸するとき起こる、耳が張ったような感覚や痛み）を覚えます。

カプセル内の圧力が上がる途中や下がる途中で、鼓膜の内外の圧力のバランスが崩れて、このような症状が起こります。（症状には個人差があります。）

これを正常に戻すには、鼻と中耳をつなぐ『耳管』という管を開く動作を行ないます。



### 2 耳抜き

この『耳管を開く動作』を、一般に『耳抜き』といいます。

これにはいろいろな方法があります。

- (1) まず最初にあくびをする動作を何回か試してください。
- (2) (1) で治らない場合は、唾液を口の中にためてゴクンと飲み込んでみてください。  
これも2～3回試してください。
- (3) (2) でも治らない場合は、舌の付け根をのどの奥へ引くような動作を繰り返してみてください。（フィレンツェル法）
- (4) (3) でも治らない場合は、鼻をつまんで鼻をかむように力んでみてください。（バルサルバ法）



- ・(4) の方法は比較的強力で耳抜きもしやすいですが、閉じていた耳管に一気に空気が押し込まれることとなりますので、**あまり強く行なうと鼓膜を傷つける可能性もあります**ので気をつけてください。
- ・これらの方法を試してもなおらない場合は、無理をせずに利用を中止してください。我慢して続けた場合、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。



## 『耳抜き支援モード』を利用するには・・・

### 1 『耳抜き支援モード』とは

カプセル内の気圧が上がっているとき（加圧中）、もしくは下がっているとき（減圧中）、カプセルの中にいる利用者は『耳抜き』をする必要がありますが、人によっては耳抜きがうまくできないことがあります。このとき『耳抜き支援モード』を利用すると、比較的ラクに耳抜きができます。

『耳抜き支援モード』は、操作器・カプセル内操作パネルの『耳抜き』ボタンを押すだけで何度でも利用できます。

### 2 『耳抜き支援モード』の操作

#### (1) 加圧中に『耳抜き支援モード』を利用するとき

①カプセル内の気圧が 1.08 気圧以上のとき『耳抜き』ボタンを押すと表示ランプの『耳抜き』が点灯します。

**※1.08 気圧未満のときは、『耳抜き支援モード』は利用できません。**

②カプセル内の気圧が、30 秒かけて 0.05 気圧下がります。

③0.05 気圧下がったら、その気圧を 30 秒間維持します。

④『耳抜き』ボタンを押してから 1 分が経過すると、『耳抜き支援モード』が終了して、再び加圧をはじめます。

#### (2) 減圧中に『耳抜き支援モード』を利用するとき

①カプセル内の気圧が 1.05 気圧以上のとき『耳抜き』ボタンを押すと表示ランプの『耳抜き』が点灯します。

**※1.05 気圧未満のときは、『耳抜き支援モード』は利用できません。**

②減圧が一時的に止まって、カプセル内の気圧は『耳抜き』ボタンを押した時点の気圧を維持します。

③『耳抜き』ボタンを押してから 1 分が経過すると、『耳抜き支援モード』が終了して、再び減圧をはじめます。

※1. 『耳抜き支援モード』の途中で『耳抜き』ボタンを押すと、その時点で『耳抜き支援モード』は終了（『耳抜き』ランプは消灯）し、もとの自動運転に戻ります。

※2. 加圧中に『耳抜き支援モード』を利用した場合の時間は、最初に設定した運転時間の中に含まれますので、その分だけ均圧時間（1.30 気圧を維持する時間＝運転時間から加圧時間と減圧時間をのぞいた時間）が短くなります。

※3. 減圧中に『耳抜き支援モード』を利用した場合の時間は、その分だけ減圧時間が延長されます。

※4. 途中終了中（減圧中）でも『耳抜き支援モード』は使えます。

※5. 選定気圧 1.1 気圧、1.2 気圧、1.3 気圧の均圧中でも『耳抜き支援モード』は使えます。

## 緊急時には・・・

*Dream-Plus*  $\mathcal{L}$  を運転中は、通常は係員が装置を監視していますが、都合により装置から離れることもあります。万一このときに次のような緊急事態が発生したら、利用者自身が下記の手順にしたがって対応できるように、事前に説明してください。

### 1 カプセルの中から係員を呼びたいとき

カプセル内操作器に設置されている『呼出ボタン』を押すと、カプセル外に設置されたインターホン親機の呼出音が鳴って、係員を呼び出すことができます。

※このとき、インターホン親機の受話器を取るとカプセル内操作器のマイクとスピーカにより会話をすることができます。

※インターホンは壁掛けタイプのため水平に置くと呼び出し音が鳴らない場合がありますので、やや斜めになるように置いて下さい。

### 2 カプセルの中からカプセル内の気圧を下げたいとき

カプセル内に設置されている緊急排気弁を開けると、カプセル内の空気が排出され、気圧が下がります。

ただし、急激に気圧が下がると耳が痛くなることがありますので、通常は『耳抜き』操作を行なってください。(31、32 ページ参照)

### 3 自動運転を途中終了したいとき

自動運転の途中で終了したいときは、操作器の『停止』ボタンを押します。

自動運転を強制終了すると、コンプレッサーから空気を供給しつつ、カプセル内の気圧を下げます。

※このときも『耳抜き支援モード』は利用できます。

### 4 非常停止したいとき

運転中に事故や災害などが発生した場合は、すみやかに非常停止操作を行って、カプセル内の利用者がカプセルから外へ出られるようにしてください。

#### (1) カプセル内で非常停止操作を行う場合

カプセル内の利用者が『緊急ボタン』を押します。緊急ボタンを押すと制御盤内のコンプレッサーが停止して、カプセル内の気圧は約4分30秒(1.3気圧コース選択時)～1分30秒(1.1気圧コース選択時)で1.00気圧まで下がります。

操作器の圧力表示が1.10気圧以下からは、カプセルの内外気圧差が小さくなり、減圧速度は遅くなります。カプセル内の緊急排気弁を開けますと、減圧を促進します。操作器の圧力表示が1.00気圧になり、操作器表示に「扉開放可」が表示されますとスライドドアを開けて、カプセル内の利用者は外へ出てもらってください。

※非常停止操作中は、『耳抜き支援モード』は利用できません。

## (2) カプセル外で非常停止操作を行う場合

制御盤左側面の電源スイッチを押して「OFF」にすると自動運転が停止し、制御盤内のコンプレッサーも停止します。カプセル内の気圧は約4分（1.3 気圧コース選択時）～約50秒（1.1 気圧コース選択時）で 1.00 気圧まで下がります。

※ 非常停止操作中は、操作器のすべての表示やランプも消灯するので、カプセル内の気圧はわからなくなります。

・ 電源 OFF の場合	・ 強制排気弁を併用した場合
1.3 気圧からの減圧時間：約4分	1.3 気圧からの減圧時間：約1分15秒
1.2 気圧からの減圧時間：約2分20秒	1.2 気圧からの減圧時間：約55秒
1.1 気圧からの減圧時間：約50秒	1.1 気圧からの減圧時間：約25秒

※非常停止操作中は、『耳抜き支援モード』は利用できません。

## 5 運転中に停電したとき

運転中に停電すると、自動運転が停止し制御盤内のコンプレッサーも停止して、カプセル内の気圧は約4分（1.3 気圧コース選択時）～約50秒（1.1 気圧コース選択時）で 1.00 気圧まで下がります。

※ 停電は、操作器のすべての表示やランプも消灯するので、カプセル内の気圧はわからなくなります。

・ 停電の場合	・ 強制排気弁を併用した場合
1.3 気圧からの減圧時間：約4分	1.3 気圧からの減圧時間：約1分15秒
1.2 気圧からの減圧時間：約2分20秒	1.2 気圧からの減圧時間：約55秒
1.1 気圧からの減圧時間：約50秒	1.1 気圧からの減圧時間：約25秒

※停電中は、『耳抜き支援モード』は利用できません。

## 6 運転中に警報音が鳴ったとき／エラーコードが表示されたとき

43 ページに記載のエラーコードが表示されて警報音が鳴ると、自動運転が強制終了モードとなり、カプセル内の気圧は約4分30秒（1.3 気圧コース選択時）～1分30秒（1.1 気圧コース選択時）で 1.00 気圧まで下がります。

※強制終了中は、『耳抜き支援モード』は利用できません。

## 1人で操作するには・・・

*Dream-Plus i* のカプセル内側からスライドドアを開閉できるという特徴を応用して、利用者自身ですべての操作をおこなうこともできます。



ここでは1人で利用する場合の手順を示していますが、利用者自身が利用中に眠ってしまったり、装置が故障したり、といった予期しないトラブルが発生したときすぐに外部から対応してもらえるよう、近くにいる人をお願いして、インターホンや携帯電話等を使ってすぐに連絡がとれる状態にした上でご利用ください。  
緊急時に対応してもらえる人がいない状態での1人操作はおひかえください。

### 1. 運転する前に

- ① 7ページ『ご利用される方への注意』をよく読み、充分理解してください。



これらに該当するにもかかわらず無理に利用した場合、体調を悪くする原因となるおそれがありますので、絶対に利用しないでください。

- ② 23ページ『1. 運転する前に』と、25ページ『確認運転をする』の全項目を完了させてください。



・装置に少しでも異常があった場合は、1人で利用しないでください。1人で利用中に故障が発生した場合、事故につながる可能性があります。

### 2. 1人で運転する

確認運転で異常がないことが確認できたら、さっそく運転してみましょう。

- ① 持ち物をチェックします。

・持ち込みが禁止されているものは、カプセル内に持ち込まないようにしてください。

<持ち込みが禁止されているもの>



- ・マッチ・ライター・たばこ・カイロ・可燃性液体などの発火・引火しやすいもの
- ・ナイフ・はさみなどの刃物類や、キリ・ドライバーなど先のとがったもの
- ・湯タンポ・ペットボトル・紙パック飲料などの密閉容器類（破裂するおそれがあります。）
- ・飲食物／薬品類

② 31 ページ『利用中に耳が痛くなったら…』、32 ページ『耳抜き支援モードを利用するには…』、33 ページ『緊急時には…』、40～41 ページの『故障?と思ったときは』をよく読み、充分理解してください。

・カプセル内に設置されている「緊急排気弁」を使いますので、それぞれ正常に動作することをしっかり確認してください。

③ 操作器の運転時間表示が設定値（初期値は 40）になっていることを確認します。

④ 操作器の表示面を、カプセルの中から窓越しに見える位置にセットします。

⑤ 強制排気弁のレバーが垂直方向を向いていることを確認します。

・レバーが水平方向を向いているときは、レバーをまわして垂直方向に向けて閉めてください。

⑥ カプセルのスライドドアを開けて、中に入ります。

・カプセルの出入口周囲の角に、手足や体をぶつかけたりしてけがをしないように注意してください。

⑦ 中に入ったら、スライドドアの内側取っ手を持ってスライドドアを閉めます。

カプセル内側に貼ってある『閉』位置表示文字とスライドドアに貼ってある矢印が一直線上にあることを確認してください。

・スライドドアを乱暴に開閉して密閉用のゴムパッキンなどを傷めないように注意してください。

・スライドドアが『閉』位置にきていないとパッキン部分から空気が漏れて、カプセル内の気圧は上がりません。

・スライドドアとゴムパッキンの間に衣服や異物をはさんだまま閉めると、密閉が不完全なために空気が漏れて、カプセル内の気圧は上がりません。



・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。

・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

⑧ カプセル内の緊急排気弁が閉まっていることを確認します。

・レバーが水平方向を向いていると弁が開いた状態となり、コンプレッサーから送られた空気が漏れて気圧が上がります。

⑨ カプセル内操作器の運転ボタンを押して、運転を開始します。



⑩ カプセル外の操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめていることを確認します。

- ・このとき、制御盤内のコンプレッサーからカプセルに空気が送られて加圧が始まり、操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめます。

カプセル内の頭側のマット下側から空気が出てくることを確認してください。

- ・圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。

\*運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。



- ・圧力表示の数値が上がりはじめてから気圧が安定するまでの間に、耳に違和感を感じた場合は耳抜きをする必要がありますが、うまくできない場合は耳が痛くなることがあります。また、我慢して利用し続けると、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。(症状には個人差があります。)
- ・これを防ぐために、加圧中には耳抜きを繰り返しおこない、耳が痛くなった場合には『耳抜き』ボタンを押して耳抜き支援モードにしてから、あらためて耳抜きをおこなってください。
- ・耳抜き支援モードでは、カプセル内の気圧を一時的に下げるので、耳抜きがしやすくなります。
- ・耳抜き支援モードを開始して1分経過すると、耳抜き支援モードにはいる前の状態に戻りますが、運転時間は最初に設定した長さのまま変わりません。
- ・耳抜き支援モードを利用して耳抜きがうまくできない場合は、無理をせずに『運転』を押して強制終了してください。

※詳細は31、32ページを参照してください。

⑪ 操作器の運転時間表示が00分になって、圧力表示が1.05気圧よりも下がって電子音が鳴ったら、『停止』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・この時点で利用者に、インターホンを通じてもうすぐ終了することを伝えてください。
- ・コンプレッサーと電子音は、『停止』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、カプセル内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が1.00気圧に近づきます。

⑫ 操作器の圧力表示が1.00気圧になりスライドドアが開かれる状態になると電子音になり『扉開放可』が表示されますのでカプセルのスライドドアを開けます。操作器の『リセット』ボタンを押して電子音を止めて下さい。

- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。



カプセル内の気圧が変化するとき、カプセルがきしむような音がする場合がありますがこれはスライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられたり、はなれたりするときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり移動させてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、充分注意してください。

## お手入れするには

*Dream-Plus*  $\mathcal{N}$ には次のお手入れが必要です。次の各項目にしたがってお手入れを行なってください。

- ① 各種弁、消音器、ホースの取り付けがゆるんでいないか、スライドドアに割れなどの傷がないか、また、シール用のゴムパッキンに裂け傷や外れがないかチェックします。(毎回)
  - ・スライドドアに割れなどの傷がないかゴムパッキンに裂け傷や外れがないかチェックしてください。
  - ・扉送気用ホースが接続口にしっかり差し込まれていないと、ホースがはずれて扉を閉めた時、気密ができなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。
  - ・送気ホースも同様に、接続口にしっかり差し込まれていないと、送気ホースがはずれてカプセル内に空気が送られなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。
  - ・各種ケーブルのコネクタがしっかり差し込まれていないと、各機器に信号が送られなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。
  
- ② カプセル内および制御盤のちり・ほこりを取りのぞきます。(毎回)
  - ・運転がおわるたびにカプセル内外の消音器や、制御盤の空気取入口フィルタの清掃(抜き取り)、排気ファンなどを確認し、ごみなど目立つものは取りのぞいてください。
  - ・1日の運転がおわったら、掃除機などを使って掃除してください。
  - ・特に消音器は、目詰まりをおこすと空気の流れに影響するだけでなく、コンプレッサーの寿命にも影響しますので、清掃をおこたらないようにしてください。
  
- ③ カプセル内のスノコ・マット等を干します。(週1~2回)
  - ・週に1~2度は、カプセル内のマットや枕を取り出して掃除してください。
  - ・カプセルから取り出したら、ほこり等の全体的なよごれはやわらかい布で乾拭きし、部分的なよごれは、水に濡らしてかたくしぼった布で軽く拭いてください。
  - ・マットの表面は合成皮革ですので、日光に当たると変色するおそれがあります。干すときは風通しの良い乾燥した、日の当たらない場所を選んでください。
  - ・合成皮革にはカビが繁殖しやすく、水に濡れると変形しやすい欠点がありますので、取り扱いには十分に注意してください。
  
- ④ 制御盤内のエアフィルターガラス窓を確認します。(週1~2回)
  - ・オートドレン付ですので、配管チューブから盤外に水が出ることがあります。
  - ・ガラス窓の内側が汚れていたら、フィルターエレメントを交換してください。
  - ・ガラス窓の内側が汚れていなくても、フィルターエレメントは年1回を目安として交換してください。(お買い上げ取扱い店にお求めください。)

⑤ カプセルについてのご注意をのぞきます。

- ・やわらかい布で乾拭きしてください。
- ・よごれがひどいときは、水または中性洗剤に濡らしてかたくしぼった布で拭いてください。  
**※酸性／アルカリ性の洗剤を使うと、カプセルの塗装をいためるおそれがあるので、洗剤を使うときはかならず中性のものを使用してください。**  
**※ゴムパッキンを溶剤系の薬品で拭くと、ゴムが溶けたり劣化が早くなりますので、使用しないでください。**  
**※スライドドア（アクリル）は溶剤系の薬品で拭くと、ヒビ、割れが生じることがありますので、使用しないで下さい。**

⑥ ゴムパッキンの変形がないか確認します。

- ・ゴムパッキンが変形した場合、加圧しようとしても圧力が上がらない場合があります。このような場合は、お買い上げ取扱い店にご連絡ください。

⑦ 下表に記載する各部品は、消耗品になります。

それぞれ下記の表を交換時期の目安として、お買い上げ取扱い店にてお求めください。

部 品 名	取 付 場 所	交 換 目 安 時 期
送気消音器（黒）（2個）	カプセル内・頭側	1年
排気消音器（大）（2個）	カプセル内・足元側	1年
リリーフバルブ消音器（黒）（1個）	カプセル外・ リリーフバルブ	1年
エアフィルターエレメント（1式）	制御盤内	1年
ゴムパッキン（一体型）（1本）	カプセル内・ スライドドア部	2年または*1 3000時間
コンプレッサー内部フィルタ（2個）	コンプレッサー内部	使用開始後 500時間 それ以降6ヶ月
停電センサーライト用バッテリー （1個）	停電センサーライト内部	約3年*2 付属の取扱説明書に よること。

**※1 消音器およびエアフィルターは、装置の使用頻度が高い場合や、設置場所等の環境によっては、上記の交換時期に変化があります。**

**※2 停電センサーライトが製造中止になっている場合は、同等の製品をお買い求め下さい。**

\*ゴムパッキンが裂けたり本体からはがれたりした場合は、新しいものと交換してください。

⑧ カプセル使用後は、スライドドアを開放して内部の空気を入れ替えるようにします。

- ・スライドドアは、装置を毎日使用する場合は閉めなくてもかまいませんが、1週間以上使用しないときは、ゴムパッキンを保護するためにも、スライドドアを閉めた状態で保管してください。また子どもの閉じこみが懸念される場合は、30ページを参照してスライドドアを固定してください。

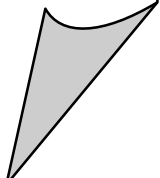
## 故障？と思ったときは

修理を依頼される前に、もう一度次の項目をおたしかめください。

故 障 ？	原 因	処 置
電源が入らない	●電源プラグがはずれている	●電源プラグを確実に差し込む
	●制御盤内のブレーカーが「OFF」になっている	●ブレーカーを「ON」にする
スライドドアがしまらない	●異物等がかみ込んでいる	●かみ込んだものを取りのぞく
	●ドアがこわれている	●お買い上げ販売店にご連絡ください
カプセル内の気圧が上がらない	●コンプレッサーが作動していない	●コンプレッサーの電源プラグを確認 ●操作器の『運転』ボタンを押す ●カプセル内の緊急ボタンを「OFF」にする
	●カプセル内の緊急排気弁が開いている	●緊急排気弁を閉める
	●強制排気弁が開いている	●強制排気弁を閉める
	●送気ホースまたは扉送気用ホースが外れている	●各ホースを確実に取り付ける
	●ゴムパッキン部から空気がもれている	●運転を止めてスライドドアを「閉」位置まで閉めなおす
	●ゴムパッキンとスライドドアとのごみ等がついている	●スライドドアとゴムパッキンのごみ等をとりごき、スライドドアを閉めなおす
	●制御盤のフィルタがよごれている	●コンプレッサーの空気取入口のよごれをとりごき
	●コンプレッサー内部フィルタがよごれている	●新しいフィルタに交換する必要がありますので、お買い上げ販売店に連絡ください
	●操作器のメッセージ表示部にエラーコードが表示される	●42 ページ『警報およびエラーコード』を参照の上、原因となるものをとりごき
	●ゴムパッキンに裂け傷やカプセル本体からの外れがある	●新しいゴムパッキンに交換する必要がありますので、お買い上げ販売店に連絡ください
カプセル内の気圧が維持できない	●スライドドアの閉め方が不完全である	●運転を止めてスライドドアを一度開け再度閉めなおす
	●強制排気弁、緊急排気弁が開いている	●強制排気弁、緊急排気弁を閉める

故障？	原因	処置
カプセル内の気圧が 1.33 を超えて警報音が鳴り、自動運転が強制終了される	●カプセル足元側内外の消音器がほこりであまっている	●消音器を清掃、または新しいものに交換する ※お買い上げ販売店にお問い合わせください。
カプセル内操作器の呼出ボタンを押しても親機が鳴らない	●インターホン親機の受話器がはずれている	●受話器を置きなおす
	●インターホン親機～制御盤間のケーブルが外れている	●ケーブルを接続する

MEMO



## 警報およびエラー表示と対策

自動運転中に何らかの異常が発生したとき、操作器の状態表示ランプの『警報』（緑ランプ）が点灯して、「ピーッ、ピーッ、…」という警報音（電子音）が鳴ると同時に運転時間表示画面にエラーコードが表示されます。

### エラーコード一覧

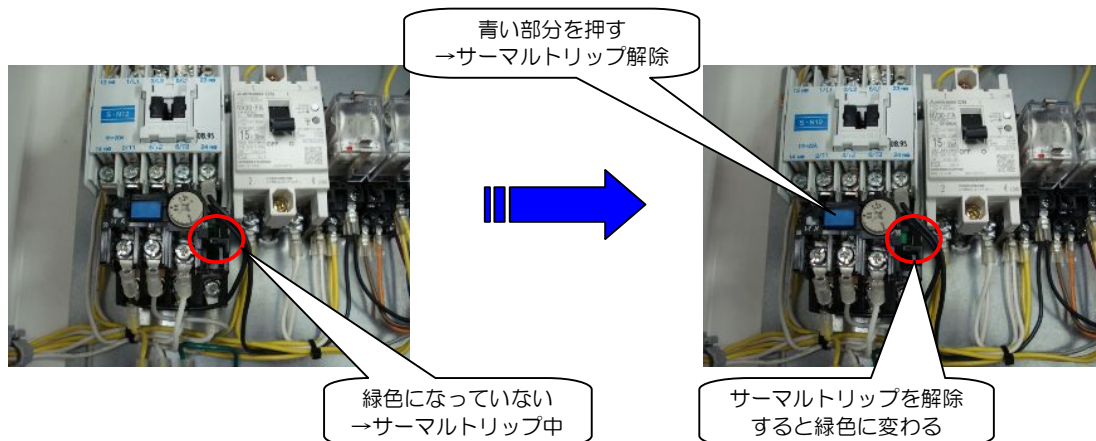
エラーコード	内 容	対 策
E 1	測定圧力値上限警報 1.33 気圧以上	●カプセル内部の排気消音器、または自動排気弁消音器の目づまりが原因と考えられるため、各消音器を交換してください。
E 2	偏差上限警報 偏差+0.07 気圧以上	●消音器を交換してもエラーが発生する場合は、自動制御装置の故障の可能性ありますので、お買い上げ販売店にお問い合わせください。
E 3	偏差下限警報 偏差-0.08 気圧以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スライドドア部分の密閉が不完全な場合は、いったん運転を中止して、スライドドアを閉めなおしてください。</li> <li>●強制排気弁や緊急排気弁が開いている場合は、それらの弁を閉めてください。</li> <li>●緊急ボタンが押されてコンプレッサーが作動していない場合は、緊急ボタンをもう 1 度押して「OFF」にしてください。</li> <li>●連続して使用するときや運転時間を長くして使用した後はゴムパッキンの変形によりカプセル内の気圧が上がらない場合があります。スライドドアを 10～15 分間程度開放して再運転して下さい。</li> </ul>
E 4	トリップ警報 サーマルトリップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプレッサーの過負荷が原因の場合は、原因をとりのぞいてから制御盤内のサーマルトリップを解除してください。</li> <li>●吸い込みフィルターの詰まり及びチューブの屈曲等の原因が考えられるため、フィルター、チューブを交換して下さい。</li> <li>●原因がわからない場合や故障と考えられる場合は、お買い上げ取扱い店にお問い合わせください。</li> </ul>
E 5	欠番	
E 6	通信異常 操作機～カプセル内操作器間	●コネクタがゆるんでいる場合は接続しなおしてください。 ●操作器接続ケーブルが断線している場合や、自動制御装置が故障している場合は、お買い上げ販売店にお問い合わせください。
E 7	通信異常 操作器～制御盤間	
E 8	欠番	
E 9	非常停止警報	●カプセル内の緊急ボタンを押した時に発生します。 カプセルを出た後はボタンを元の位置に戻して下さい。

●これらのエラーコードが表示されると自動運転は強制終了され、カプセル内の気圧が下がります。約 4 分 30 秒（1.3 気圧コース選択時）～1 分 30 秒（1.1 気圧コース選択時）で 1.00 気圧まで減圧

※このとき、『耳抜き支援モード』は使えません。



- 警報音を止めるには、操作器の『リセット』ボタンを押してください。  
エラー表示は、カプセル内の気圧が下がってエラーが解除されると元に戻ります。  
カプセル内の気圧が 1.00 気圧になってもエラー表示が元に戻らないときは、制御盤左側面の電源スイッチを「OFF」→「ON」してください。それでも戻らない場合はお買い上げ販売店にお問い合わせください。
- エラーコード『E4』が表示されたときは、制御盤内左上のサーマルを確認し、トリップ状態であれば、青い部分を押してトリップを解除してください。  
それでも戻らない場合はお買い上げ販売店にお問い合わせください。

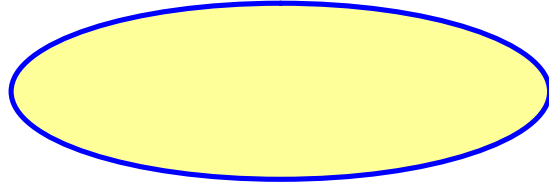
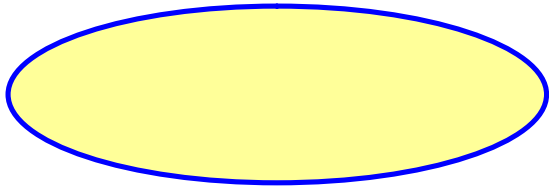


MEMO

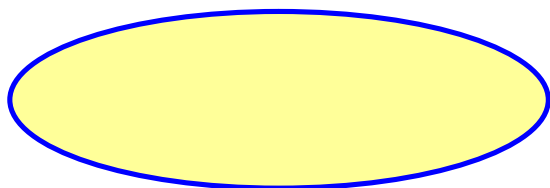
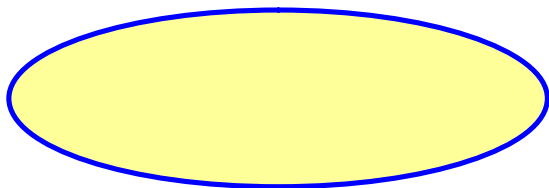
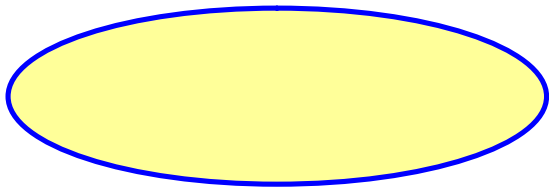
## 主 な 仕 様

種 類	: スチール製エアーカプセル
品 名	: <i>Dream-Plus</i> <i>i</i>
品 番	: DP-K700C
設 定 圧 力	: 1.3/1.2/1.1 気圧 (通常 7 分で到達)
材 質	: カプセル本体; 1.2mm 厚鋼板, スライドドア; アクリル板
コ ン プ レ ッ サ ー	: ロータリー式エアーコンプレッサー オイルレスタイプ 4 極モータ内蔵
外 形 寸 法	: カ プ セ ル W 712×L 2,050×H 850 mm (内径 700mm) 制 御 盤 W 500×D 300 mm×H 560
重 量	: カプセル: 100 k g (乾燥) 制御盤: 30 k g
電 源	: AC100V, 50Hz/60Hz
消 費 電 力	: 600W (約 10 円/時間)
運 転 タ イ マ ー	: 20~120分 (2時間) まで設定可能 工場出荷時の設定: 40 分 ※初期値変更可能
主 な 付 属 品	: 操作器 (タッチパネル)、マット、枕、送気ホース カプセル内操作器、スライドドア用ホース 制御盤 (コンプレッサー付) スノコ (2 枚)、自動排気弁 (ケーブル・ホース付) インターホンセット (ケーブル付) 停電センサーライト (取扱説明書付) <i>Dream-Plus</i> <i>i</i> 取扱説明書 (本書), インターホン (ドアホン) 取扱説明書

●デザインおよび仕様は、性能向上のため予告なく変更することがあります。



# 設置手順書



# Dream-Plus i の設置

## 1 梱包（カプセル本体＋制御盤＋ダンボール箱）をすべて解き、下記のものすべてそろっているか確認します。

- ・不足するものがある場合は、お買いあげ店にご連絡ください。

数量が書かれていないものはすべて1個とします。

(1) カプセル本体（スライドドア、各種バルブ、スノコ、マット、排気ホース、チャンバー内操作器取付済）

脚カバー×2枚 / 枕 / カプセル内用 AC100V 電源タップ

**※納入時には搬送用のキャスターが4個取り付けられていますが、これは付属品ではありません。**

(2) 制御盤（コンプレッサー取付済）

(3) ダンボール箱

取扱説明書ファイル／操作器（取付板・ケーブルおよびスタンド付）／コネクタボックス

強制排気シール／インターホン親機（ケーブル・取付ねじ付）／送気ホース（太）／扉用送気ホース（細）

自動排気弁（取付板・ケーブル付）／自動排気弁消音器／ストッパー用穴キャップ×4個

カプセル外電源コード（5m）／制御盤用電源コード（3m）

制御盤～コネクタボックス間ケーブル（7P）／カプセル外部～コネクタボックス間ケーブル（12P）

強制排気弁（取付板付き）および消音器／カバー取付金物（取付ねじ付き）×4 停電センサーライト

## 2 設置する場所近くにカプセルを移動させ付属品を取りつけます。

### 2-1 カプセル内

※カバー、枕、マット、スノコ（ねじを外す）は一旦外へ出して下さい。

**※スノコの固定ねじは本体運搬時に必要ですので大切に保管しておいてください。**

(1) カプセル内のドアストッパーをはずし、黒いキャップで穴をふさぎます。

- ・ドアストッパーはチャンバー内足元側の左右各2カ所についています。

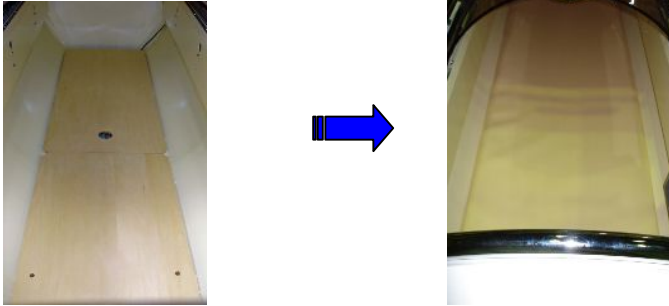
**・はずしたドアストッパーは大切に保管しておいてください。**



(2) カプセル内用 AC100V 電源タップ及び停電センサーライトを取付けます。



(3) カプセル内にスノコを置いて、その上にマットを敷きます。



## 2-2 カプセル外

(1) 操作器を写真のように取り付けます。

- ・プラスドライバーを使ってしっかり取り付けてください。



(2) コネクタボックスを写真のように取り付けます。

- ・マジックテープの位置に固定して下さい。

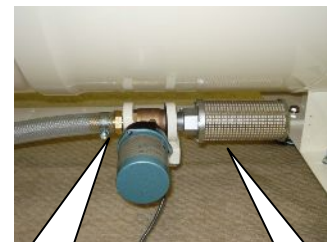


(3) 自動排気弁を写真のように取り付けます。

- ・プラスドライバーを使ってしっかり取り付けてください。
- ・排気ホースにバンドが付属していますので、ホースを奥までしっかり差し込んで工具を使ってしっかりバンド取り付けてください。



ねじをしめる  
2箇所



ホースを差し込み  
バンドをしめる

サイレンサを  
取り付ける

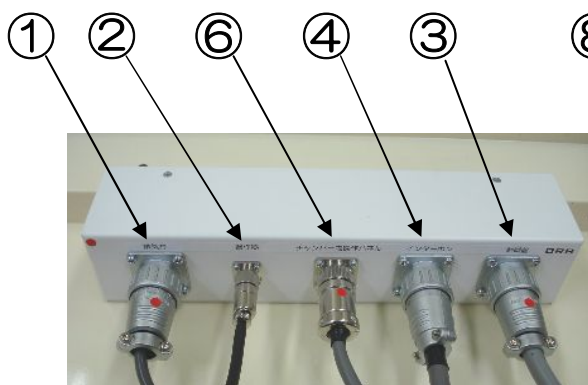
(4) カバー取付板を写真のように取り付けます。(4カ所)

・プラスドライバーを使ってしっかり取り付けてください。

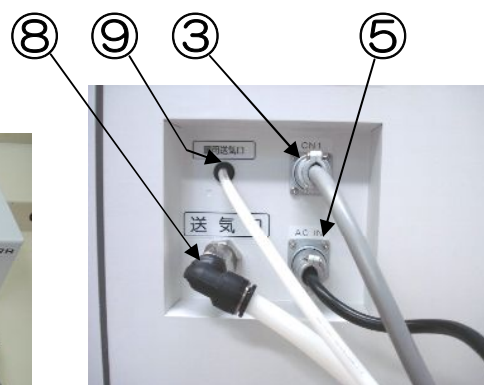


(5) 各ケーブル・ホースを接続します。

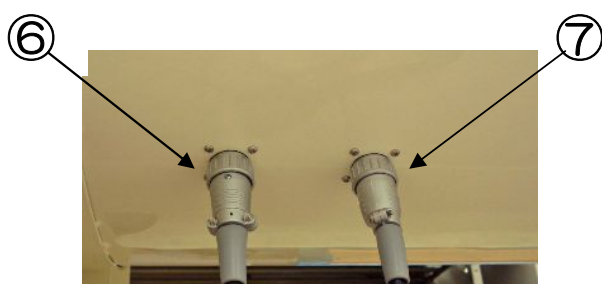
- ①自動排気弁のケーブル    ②操作器のケーブル    ③制御盤～コンネクタボックス間ケーブル  
④インターホンのケーブル    ⑤制御盤電源ケーブル(3m)    ⑥カプセル内操作パネルのケーブル  
⑦カプセル内100V電源のカプセル外ケーブル(5m)    ⑧送気用ホース    ⑨扉用送気ホース



(カプセル本体)



(制御盤本体)



(カプセル本体)

・各種ケーブルのコンネクタがしっかり差し込まれていないと、各機器に信号が送られなくなる可能性がありますので、確実に差し込んで、はずれないように固定してください。



3 設置する場所近くにカプセルを移動させ、脚部の下に、足元側→頭側の順に固定台を置いて  
キャスターを取りはずし、頭側→足元側の順に固定台をはずして、本設置します。

- ・固定台を置く順序を逆にするるとバルブや消音器を損傷するおそれがありますので、注意してください。
- ・取りはずしたキャスターは搬入用ですので、かならず取扱い店様が持ち帰り、工場に返送してください。



4 強制排気弁を写真のように取り付けます。

- ・プラスドライバーを使ってしっかり取り付けてください。



5 脚カバーを写真のように取り付けます。

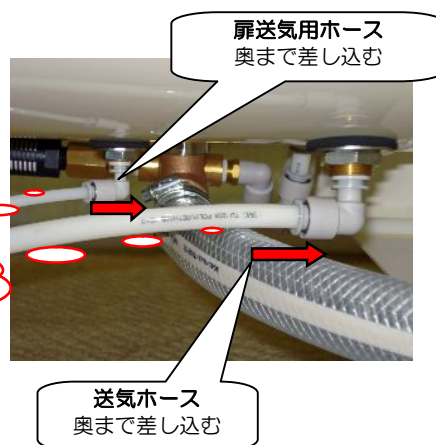
- ・プラスドライバーを使ってしっかり取り付けてください。



6 本体に各ホースを接続します。

- ・扉送気用ホースが接続口にしっかり差し込まれていないと、ホースがはずれて扉を閉めた時気密ができなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。
- ・送気ホースも同様に、接続口にしっかり差し込まれていないと、送気ホースがはずれてカプセル内に空気が送られなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。

制御盤側も同様に!!



## 7 完成。

- ・ 確認運転を行い、故障や空気の漏れ等がないことを確認してください。

### <カプセル本体>



### <制御盤>



---

エアーカプセル *Dream-Plus i*  
DP-K700C 取扱説明書

2009年04月	初版発行	DPK700C-8002-R0
2009年08月	改訂第2版発行	DPK700C-8002-R1
2010年05月	改訂第3版発行	DPK700C-8002-R2
2012年07月	改訂第4版発行	DPK700C-8002-R3

発行 **川崎エンジニアリング株式会社**  
医療・健康装置部

Printed in Japan

---

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書の一部または全部を無断で複製または転載することを禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

## 川崎エンジニアリング株式会社

---

<http://www.khi.co.jp/corp/ke/>

本 社 〒653-0834 神戸市長田区川西通2丁目4番地

(営業部直通) TEL. 078-612-7101 FAX. 078-642-3656